

文化に関する世論調査

—ウェルビーイングと文化芸術活動の関連—

報告書

令和4年3月31日

(実施：文化庁地域文化創生本部)

分析：京都大学こころの未来研究センター

(PL:内田由紀子)

I. 調査概要

1. 調査目的

文化に関する国民の意識や活動が、ウェルビーイングとどのように関わっているのかを検証し、今後の施策の参考とする。

ウェルビーイングは、心身における「良い状態」が持続的に経験されていることやそうした経験を促進するような場の状態なども含めることができる概念である。日本語では「幸福」にも近い概念として取り扱われるが、幸福がより感情に焦点をあてたものであるのに対し、ウェルビーイングは感情だけではなく健康や生きがいをも含めることができる。

ウェルビーイングは近年、国内外での政策においても重要なテーマとして取り扱われている。教育政策や環境政策もその一つであるが、文化芸術活動がどのようにウェルビーイングと関わるのかという視点から、政策評価が行われてきたことはこれまでになかった。本調査においては、これまで文化庁が実施してきた文化芸術活動に関連する調査の中にウェルビーイング関連項目を追加し、それらの関係性を検討することにより、文化芸術活動がもつ新たな側面を考察するものである。

本報告においては結果として、特に人生の意義や社会とのつながりに関するウェルビーイングである「ユーダイモニア」と文化芸術鑑賞、あるいは文化芸術活動との関連が見られている。この関連は年齢や性別、都市サイズや年収などを統制しても残る関連であり、文化芸術に触れることが、人々の生きがいやつながりと一定の関係があることが見出されている。

この点については解釈の余地は残る。今回の調査では個人差としての相関関係を見ているにすぎず、因果関係を特定することはできないからである。文化芸術活動に触れることでウェルビーイングを感じるということもできるが、その反対に、よりウェルビーイングを感じている個人は、文化芸術に関心を持ちやすいということもできるだろう。この点については今後の時系列的な調査を実施するなど検討をしていくことが期待される。

また、本調査においては居住地域における文化芸術活動への満足度も尋ねている。内閣府の「満足度・生活の質に関する調査報告書2021」においては「住宅」「自然環境」等、居住環境における満足度が尋ねられているが、文化芸術に関する設問は設けられていない。この点においても本報告書の資料は今後の参考となるであろう。

2. 調査項目

文化芸術の鑑賞や体験活動については、「文化に関する世論調査 報告書」に記載のとおりである。本項においては「文化に関する世論調査 報告書」では触れられていなかったウェルビーイング測定項目について説明する。

- (1) 現在の主観的幸福感
- (2) 現在の主観的健康感
- (3) 人生満足度
- (4) ユーダイモニア（人生の意義・社会とのつながり）
- (5) 協調的幸福感
- (6) 畏怖・畏敬的感情経験の希求

3. 調査対象・期間・調査方法等

「文化に関する世論調査 報告書」に記載があるため割愛

4. 調査における主たる検証事項

本報告書において主に検討する事項は下記のとおりである。

- (1) ウェルビーイング関連項目と、文化芸術鑑賞・活動の関連の検討
- (2) ウェルビーイングと文化芸術鑑賞・活動の関連は年齢や性別などを超えて一般化可能か

この (1) (2) の事項に関連する変数の分布を示し、その後個別の変数間の関連について報告する。

5. 先行研究における知見

Totterdell & Poerio (2021)がイギリスで実施した研究では、文化芸術鑑賞・活動がウェルビーイング（感情的な幸福、人生の満足度、人生の意味、精神的な幸福）にどのような影響を与えるかを検討している。結果、特にライブアート（音楽の生演奏、ダンスや演劇、オペラ）に触れることはウェルビーイングのあらゆる側面と正の相関があり、一方でスクリーンアートやスポーツ観戦にはこうした関連が見られなかった。また、3年間隔で実施された縦断パネル調査から、芸術鑑賞の頻度はその後の幸福を予測していた。また、Fujiwara et al (2013)のイギリスにおける調査の報告でも芸術鑑賞や参加が人生満足に関連する正の効果が示されている。

参考

Totterdell, P., & Poerio, G. (2021). An investigation of the impact of encounters with artistic imagination on well-being. *Emotion*, 21, No. 6, 1340–1355

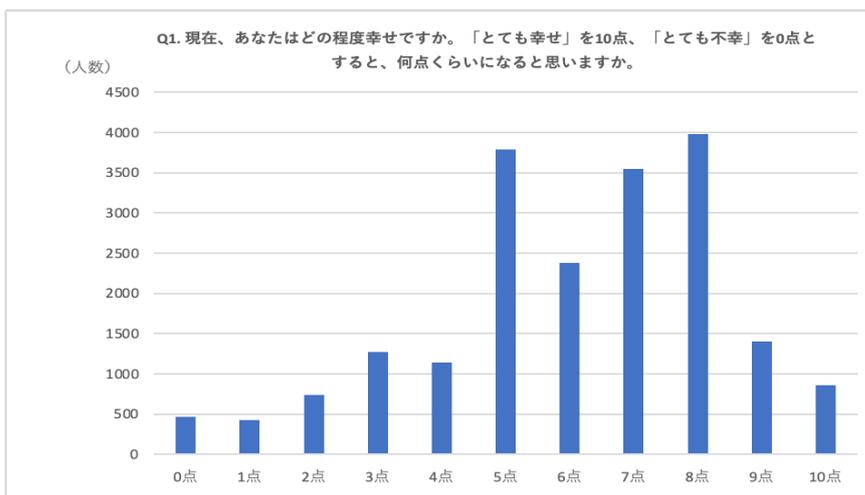
Fujiwara, D., Kudrna, L., & Dolan, P. (2014). Quantifying and valuing the wellbeing impacts of culture and sport. Department for Culture Media and Sport Research Paper.

II. 結果

1. 各変数のヒストグラム

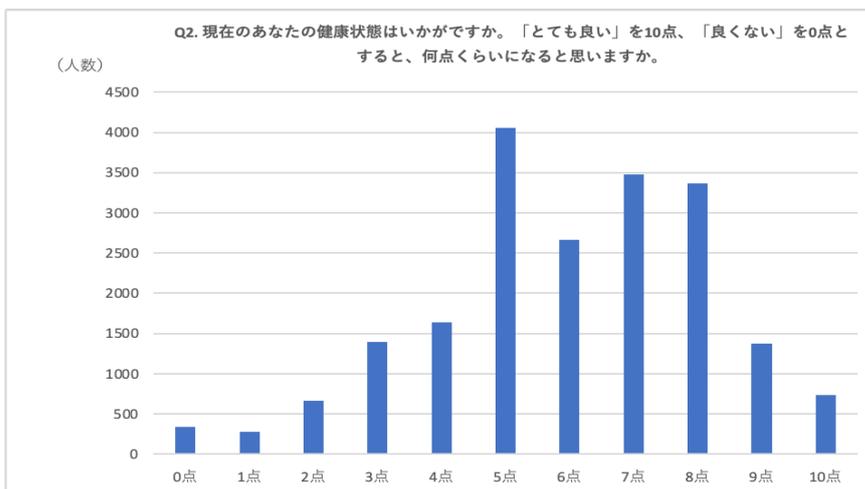
・ Q1 幸福感

- 平均値=6.07, SD=2.29
- 本項目は現在の幸せの程度を一般的なレベルで尋ねているものである。5点と8点に山があるのはこれまでの日本におけるデータ（例：内閣府 満足度・生活の質に関する調査報告書, 2021）とも一致している。



・ Q2 主観的健康

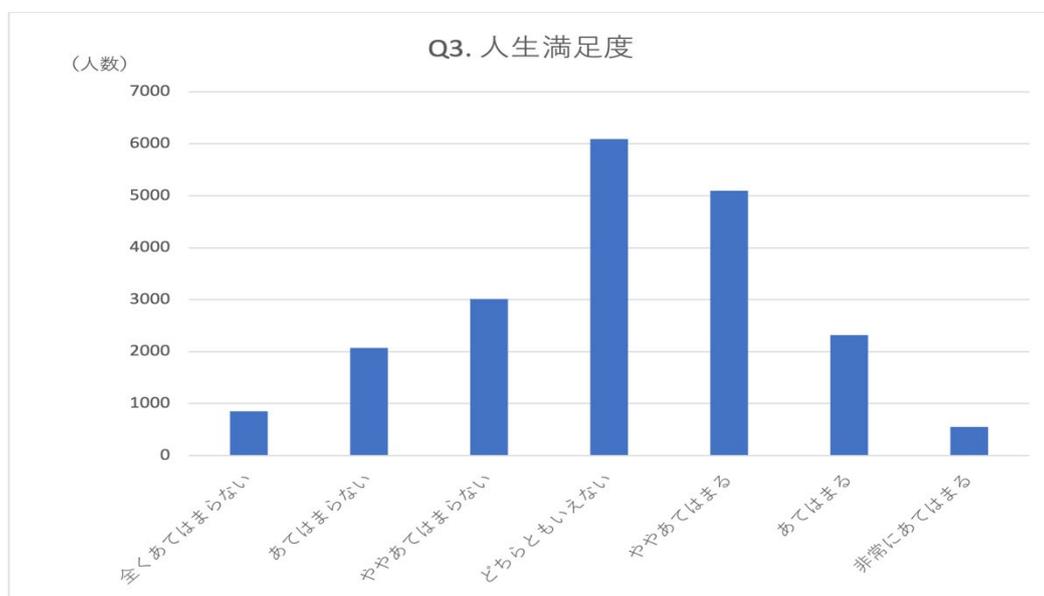
- 平均値=5.98, SD=2.17
- 本項目は主観的な健康状態について尋ねているものである。参考までに、内閣府 満足度・生活の質に関する調査報告書2021においては、健康状態への満足度という類似項目の平均値が5.57となっていた。



・ Q3 人生満足度 Q3の5項目平均

- 人生満足感尺度は、Diener et al (1985) による尺度で、世界各国で幅広く用いられている指標である。本調査では自分の人生の状況にどれくらい満足しているのか、下記の5項目で尋ねた（7件法, 1 全くあてはまらない/2 あてはまらない/3 ややあてはまらない/4 どちらともいえない/5 ややあてはまる/ 6 あてはまる/7 非常にあてはまる）。
- 平均値=3.75, SD=1.35
- 信頼性 $\alpha = 0.93$
- 5項目のまとめ（信頼性）係数が高かったため、下図のヒストグラムは平均値として算出している。

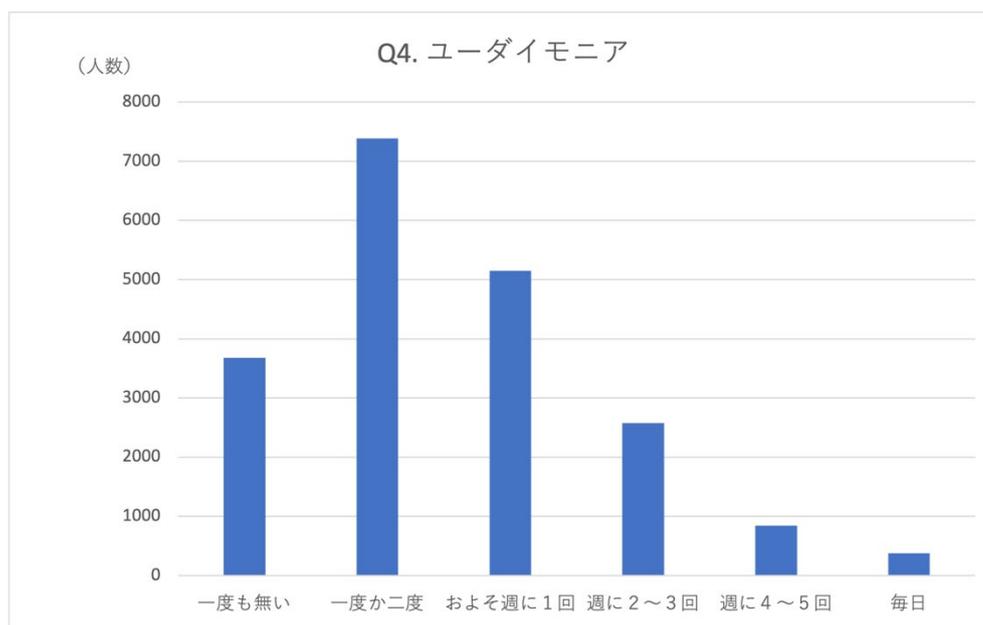
私は自分の人生に満足している
私の暮らし向き(生活状態)は素晴らしいものである
大体において、私の人生は理想に近いものである
もう一度人生をやり直すとしても、私には変えたいと思うところはほとんどない
これまで私は望んだものは手に入れてきた



・ Q4 ユーダイモニア Q4 の6項目平均

- ユーダイモニアは、人生の意義、あるいは社会的つながりといった意味を含む、長期的で包括的なウェルビーイング項目である。本調査ではKeyesによる尺度から7項目を用いて測定した。（教示文：過去30日間での、あなたの経験について教えてください。それぞれ、もっともあてはまるもの1つに○をつけてください：6件法,1-度もない/2 一度か二度/3 およそ週に1回/4週に2~3回/5 週に4~5回/ 6 毎日)
- 平均値=2.21, SD=1.08
- #7を除く6項目での信頼性 $\alpha = 0.92$
- 7項目のまとまりがわるく、1~6の6項目の信頼性係数が高かったため、以下は7項目目を削除した下記の1~6項目での平均値として算出している。

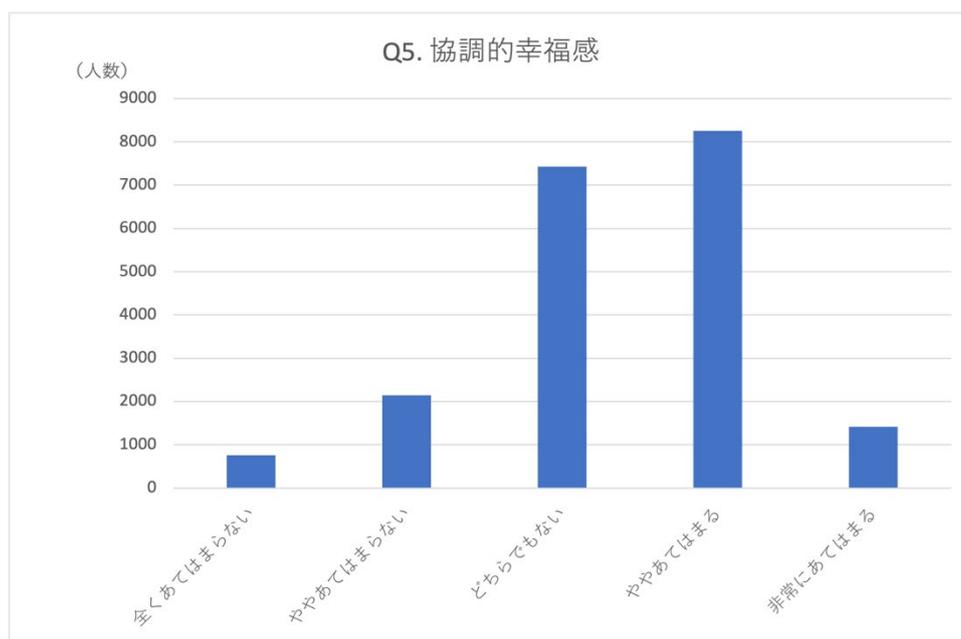
社会に貢献できる要素があると感じた
自分はコミュニティや集団の一部だと感じた
他者との温かく信頼できる関係があると感じた
自分が成長し、よりよい人になることを促すような経験があった
自信をもって自分のアイデアや意見を考えたり、話したりした
自分の人生には方向性や意味があると感じた



・ Q5 協調的幸福感 Q5の8項目平均

- 協調的幸福感は、Q3の人生満足度尺度が北米で開発され、より獲得志向的項目となっているのに対し、穏やかさやバランス志向などの日本文化における幸福に関する価値に基づいて作成されたものである(Hitokoto & Uchida, 2015)。原版の項目は9項目からなるが、本調査ではその中から下記の5項目を用いて検討した。5件法, 1全くあてはまらない/2 ややあてはまらない/3 どちらでもない/4 ややあてはまる/5 非常にあてはまる)
- 平均値=3.03, SD=0.86
- 信頼性 $\alpha = 0.94$
- 8項目の信頼性係数が高かったため、以下は8項目での平均値として算出している。

自分だけでなく、身近なまわりの人も楽しい気持ちでいると思う
周りの人に認められていると感じる
周りの人たちと同じくらい幸せだと思う
周りの人並みの生活は手に入れている自信がある
周りの人たちと同じくらい、それなりにうまくいっている
大切な人を幸せにしていると思う
大きな悩み事はない
人に迷惑をかけずに自分のやりたいことができている

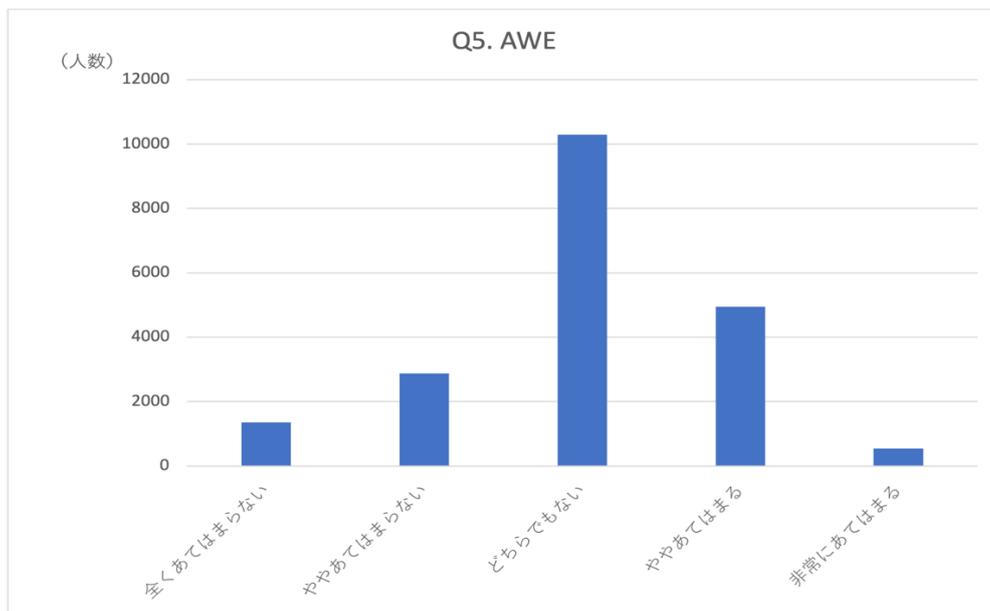


Q5 Awe（畏怖畏敬）体験

- 畏怖畏敬体験は特性ポジティブ Awe（畏怖・畏敬）尺度 (Shiota et al., 2006) から2項目を用いて検討した。(5件法, 1全くあてはまらない/2 ややあてはまらない/3 どちらでもない/4 ややあてはまる/5 非常にあてはまる)。感動や畏怖・畏敬につながる体験をどれだけ求める特性があるかを測定するものであり、文化芸術鑑賞がウェルビーイングとなぜ、どのように関連するのかを検討する要素となると考えられる。
- 平均値=2.86, SD=0.83
- 2項目 $r=0.41$
- 以下は2項目での平均値として算出している。

周囲に美しいものを見いだすことができる

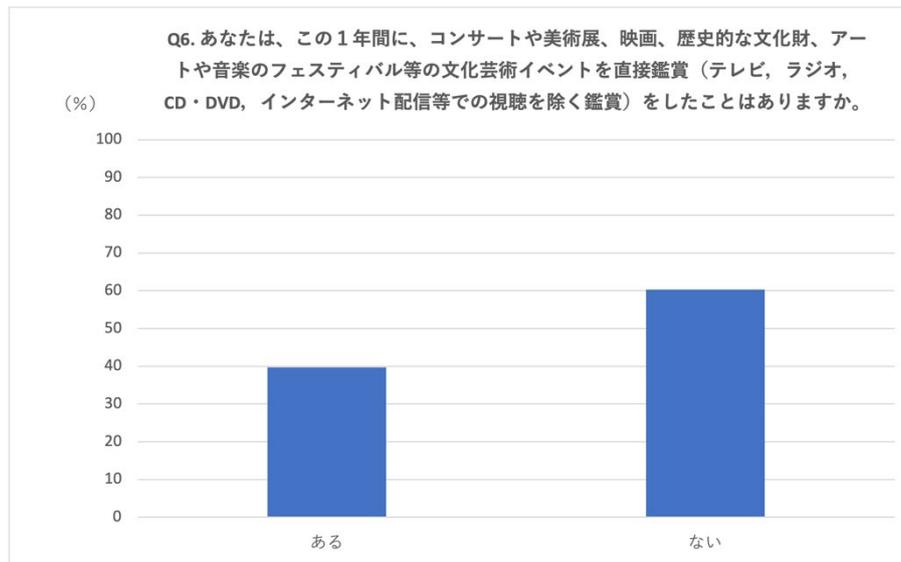
私は自分の世界に対する理解を揺るがす体験を求めている



以上、ウェルビーイングにかかわる項目のヒストグラムを概観したが、これらのウェルビーイングと、下記に分布を掲載する文化芸術鑑賞・活動の関連を検討する。

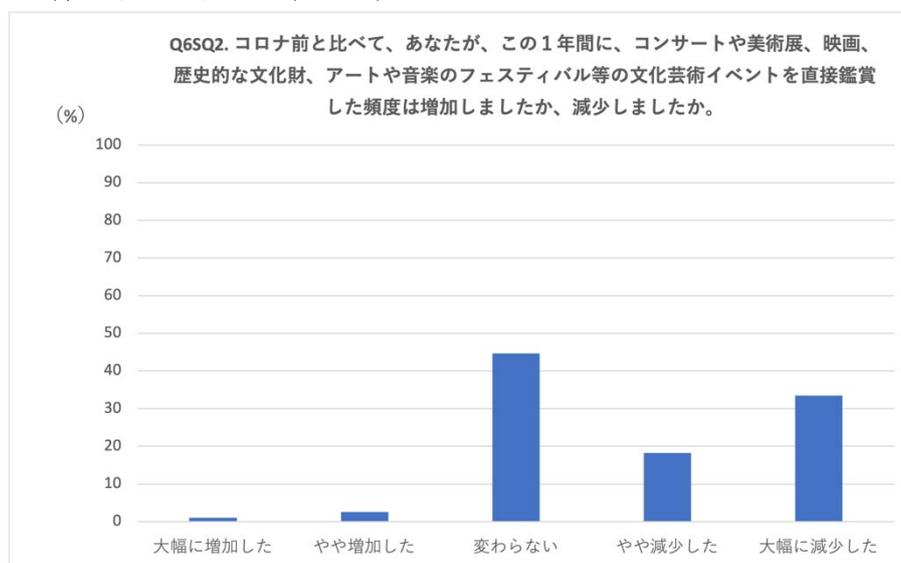
・ Q6 文化芸術の直接的鑑賞 Q6 あり群、なし群

- あり39.7%, なし60.3%
- コロナ禍ということもあり、1年間の文化芸術の直接鑑賞の経験は、ないという人が6割超となっていた。



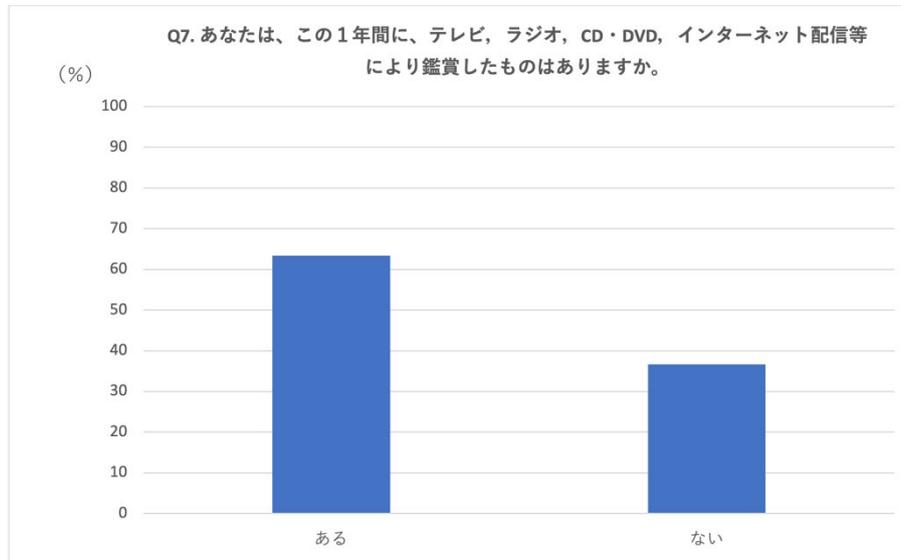
・ Q6SQ2 コロナにおける鑑賞増減 Q6SQ2

- 文化芸術鑑賞はコロナ禍で減少したと回答した人が5割を超えていた。
- 大幅に増加した(1.0%), やや増加した(2.5%), 変わらない(44.7%), やや減少した(18.2%), 大幅に減少した(33.5%)



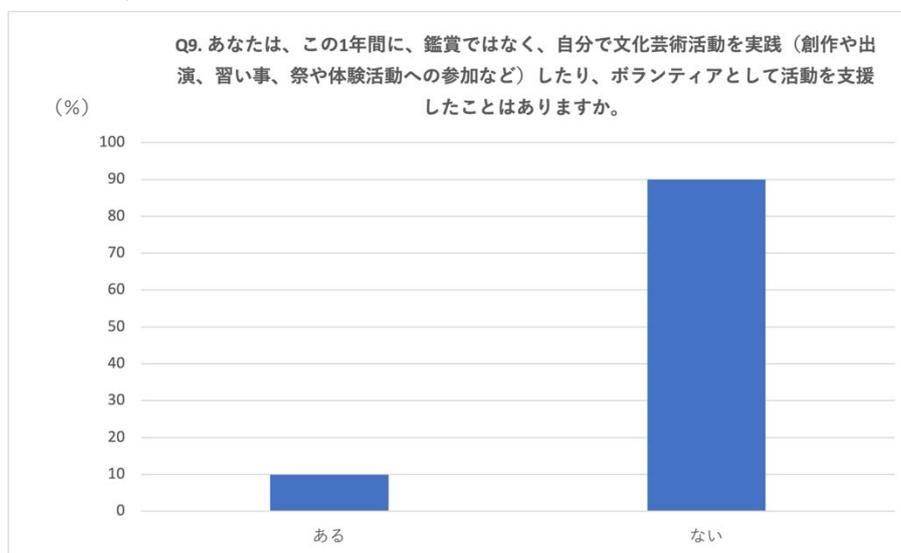
・ Q7 間接的文化鑑賞 Q7

- この1年間で、テレビやネットを通じた間接的な鑑賞の経験はある人が6割を超えていた。
- あり63.3%, なし36.7%



・ Q9 文化実践

- この1年間で、文化実践（創作、演奏等）の経験はない人が9割と、かなりの多数となっていた。
- あり10.0%, なし90.0%



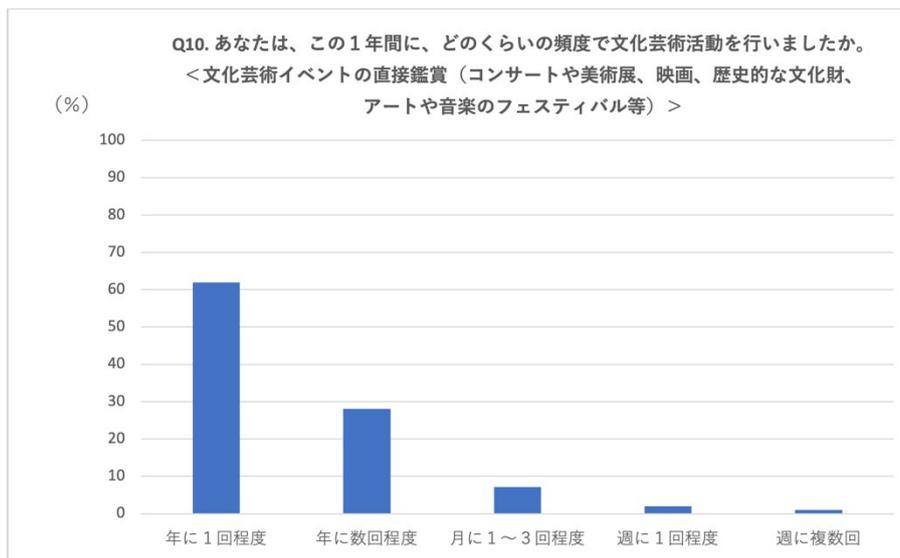
・ Q10 文化芸術頻度

頻度については、上記項目で「あり」と回答した人に尋ねている項目である。以下の3項目では、5が一番多くなるように分析処理を行った結果である。

1. 年に1回程度、2. 年に数回程度、3. 月に1～3回程度、4. 週に1回程度、5. 週に複数回

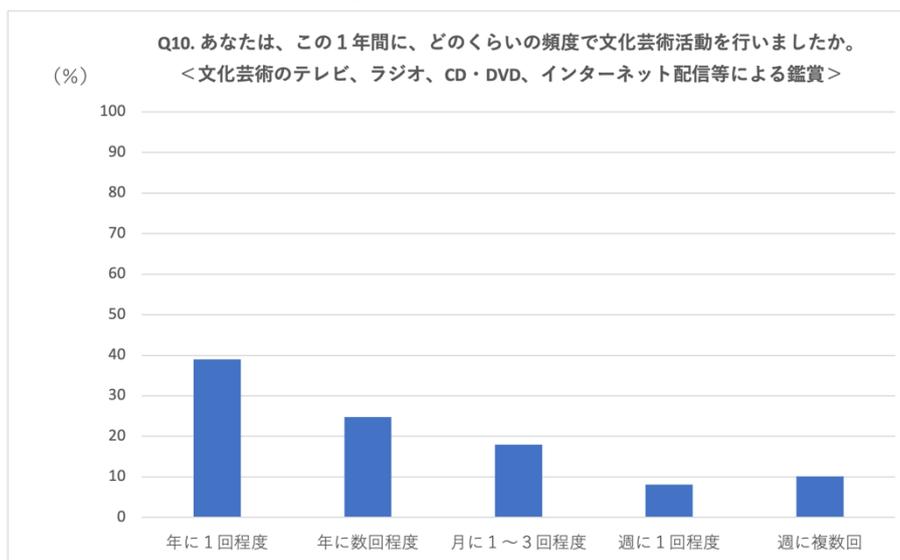
Q10S1 文化芸術活動頻度〈直接的鑑賞〉

- 直接鑑賞の頻度は年に1回程度が最多であった。
- 1. 年に1回程度(61.9%)、2. 年に数回程度(28.1%)、3. 月に1～3回程度(7.1%)、4. 週に1回程度(1.9%)、5. 週に複数回(1.0%)



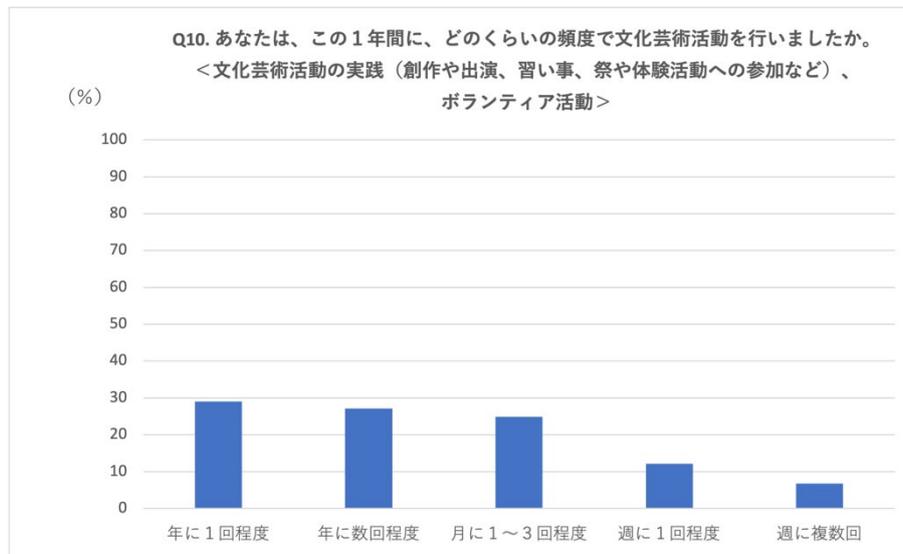
Q10S2 文化芸術活動頻度〈間接的鑑賞〉

- 間接鑑賞は直接鑑賞よりも頻度が高かった。
- 1. 年に1回程度(39.0%)、2. 年に数回程度(24.7%)、3. 月に1～3回程度(18.0%)、4. 週に1回程度(8.1%)、5. 週に複数回(10.2%)



Q10S3 文化芸術活動頻度 〈活動の実践〉

- 文化芸術の活動については「あり」とした回答者は少なかったものの、活動がある人の中には頻度は高いことがわかる。
- 1. 年に1回程度(29.0%)、2. 年に数回程度(27.1%)、3. 月に1～3回程度(24.9%)、4. 週に1回程度(12.2%)、5. 週に複数回(6.8%)



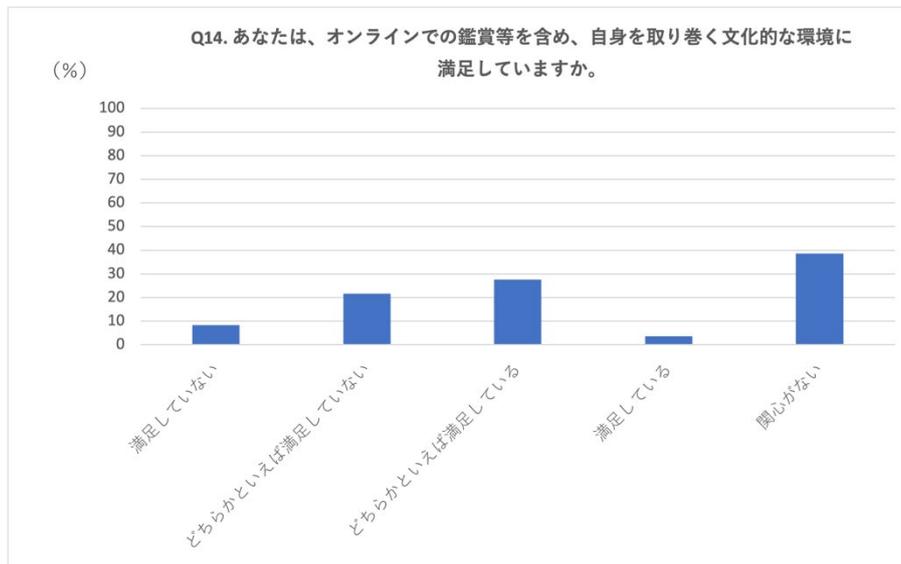
・ Q12 地域の文化環境への満足度

- 地域における文化鑑賞や活動の満足度について尋ねた項目である。以下は1～4の尺度で、4が一番満足度が高くなるように分析処理を行った結果である。5は「関心がない」である。
- 結果として関心がある人の中ではどちらかといえば満足という人が多かった。しかしながら関心がないという回答が全体の36.8%をしめていた。
- 1. 満足していない(9.0%)、2. どちらかといえば満足していない(22.0%)、3. どちらかといえば満足している(28.7%)、4. 満足している(3.4%)、5. 関心がない(36.8%)



・ Q14 文化的環境満足度

- オンラインでの文化鑑賞を含めた満足度について尋ねた項目である。以下は1～4の尺度で4が一番満足度が高くなるように分析処理を行った結果である。5は「関心がない」である。
- 1. 満足していない(8.4%)、2. どちらかといえば満足していない(21.7%)、3. どちらかといえば満足している(27.6%)、4. 満足している(3.6%)、5. 関心がない(38.7%)

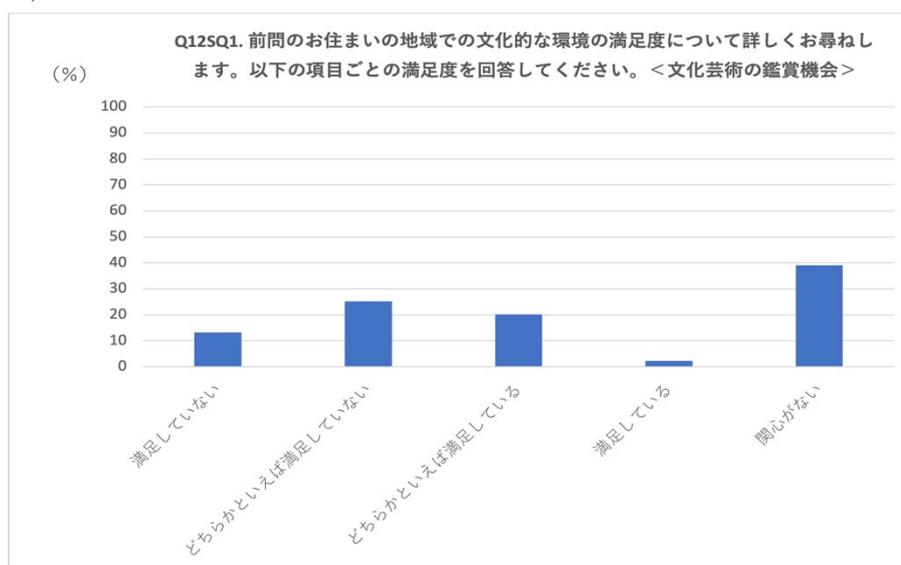


・ Q12SQ1 地域の文化環境への満足度

- 地域における文化鑑賞や活動の満足度の各分野について尋ねた項目である。

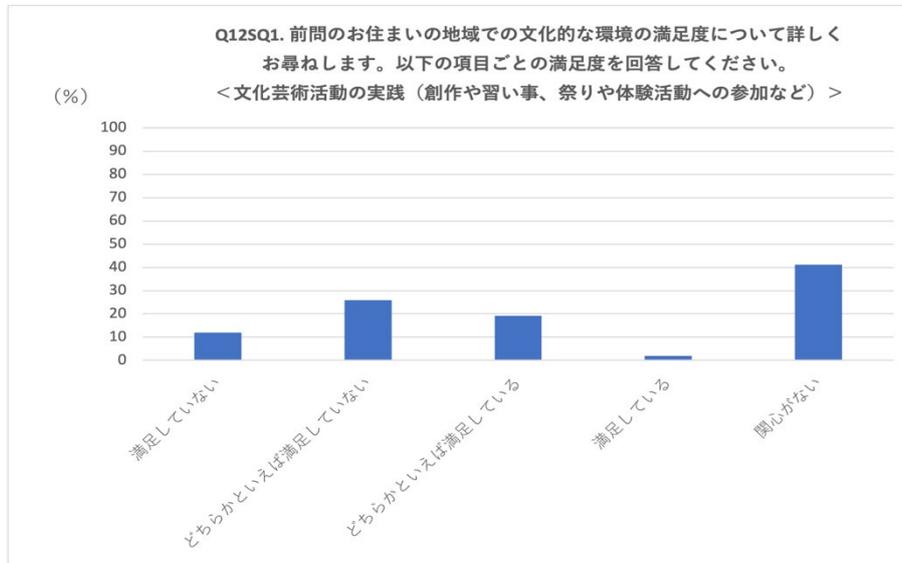
<文化芸術の鑑賞機会>

- 1. 満足していない(13.3%)、2. どちらかといえば満足していない(25.1%)、3. どちらかといえば満足している(20.2%)、4. 満足している(2.2%)、5. 関心がない(39.2%)



<文化芸術活動の実践機会>

- 1. 満足していない(11.9%)、2. どちらかといえば満足していない(25.8%)、3. どちらかといえば満足している(19.2%)、4. 満足している(2.0%)、5. 関心がない(41.1%)



<文化財や伝統的まちなみ>

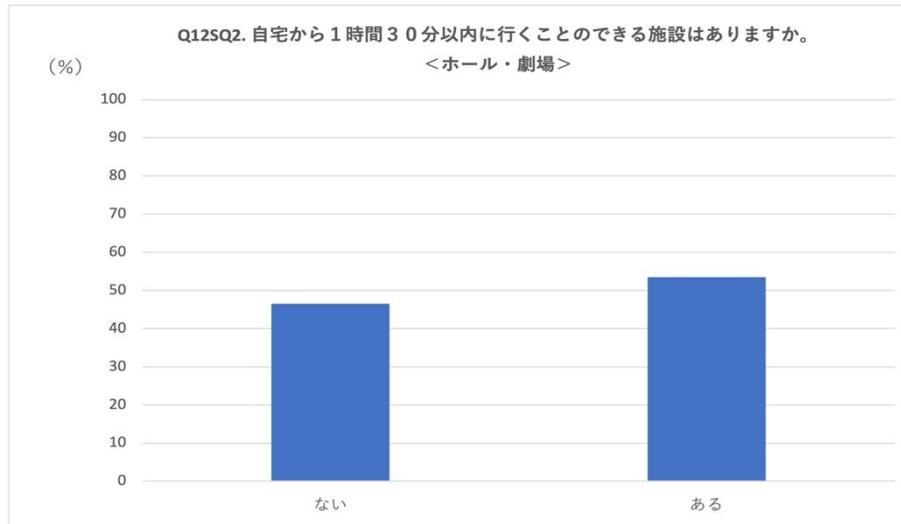
- 1. 満足していない(11.4%)、2. どちらかといえば満足していない(25.9%)、3. どちらかといえば満足している(22.7%)、4. 満足している(2.4%)、5. 関心がない(37.8%)



・ Q12SQ2 自宅近く（1時間半以内に行くことができる）施設について

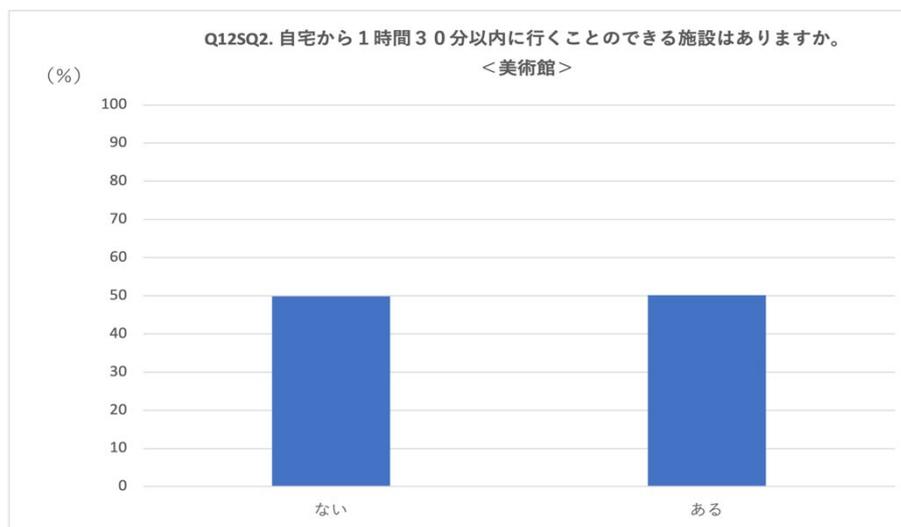
<ホール・劇場の有無>

- ある（53.5%）, ない(46.5%)



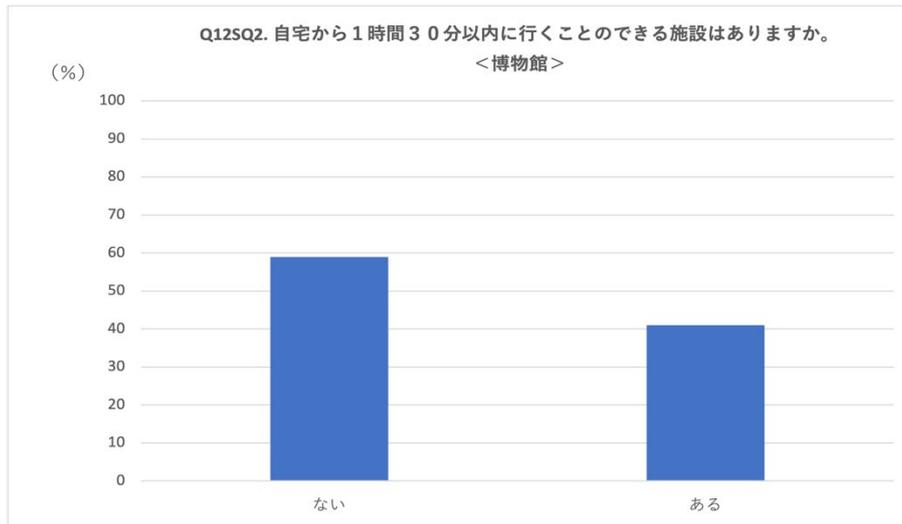
<美術館の有無>

- ある(50.2%), ない(49.8%)



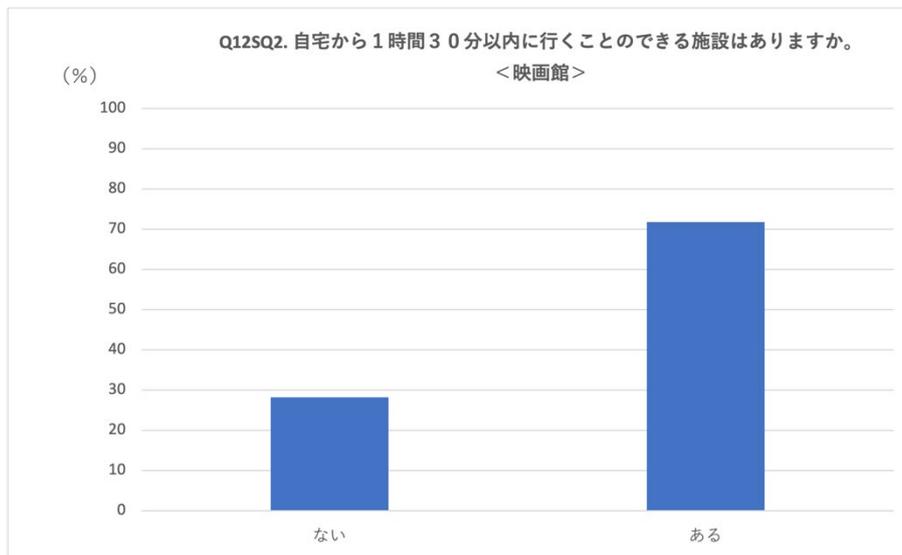
<博物館の有無>

- ある(41.0%), ない(59.0%)



<映画館の有無>

- ある(71.8%), ない(28.2%)



2. 文化芸術鑑賞・実践とウェルビーイングの関係

以下では、文化芸術鑑賞や実践等とウェルビーイングの関係を検討する。なお、2群の比較ではt検定を用いている(カッコ内は自由度)。pが有意差であり0.05以下の場合には統計的に検定による2群の差は有意であるということになるが、今回はデータ数が多い(N = 20006)ため、有意差は出やすい状態となっており、効果量(d)による判断が必要となる。dは0.5以上で中程度とみなすのが基本である。

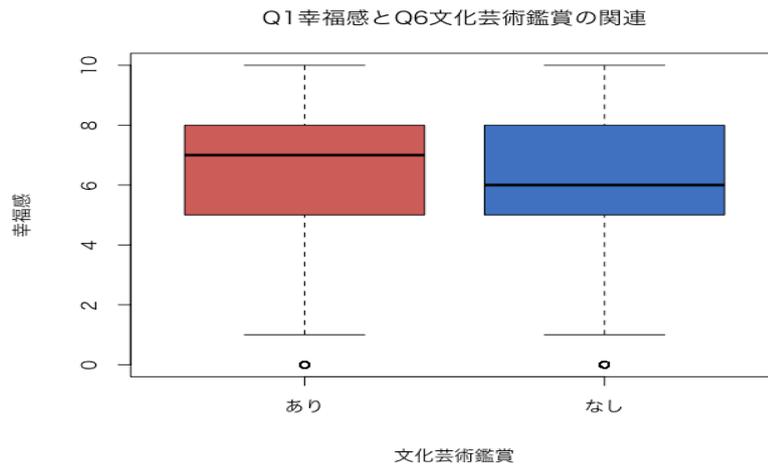
また、図においてはデータの分布を見ることができる。まず、長方形内の横の太いラインがそれぞれの群の中央値(50%目のデータ)を表している。そして、縦棒の下側の末端がそれぞれの群のデータ内における最小値であり、上側の末端が最大値となっている。長方形の箱は下底が小さい方から25%目のデータを表し、上底は75%目のデータを表す(つまり、長方形の範囲にはデータの真ん中の50%が含まれている)。いくつかの図に含まれている白丸の点は外れ値である。

Q6 文化芸術の直接的鑑賞

Q6の文化芸術の直接的鑑賞を1年以内に「あり」とした群(39.7%)と「なし」とした群(60.3%)で比較をした結果、幸福感、主観的健康、人生満足度、ユーダイモニア、協調的幸福、Awe（畏怖畏敬）のいずれもあり群>なし群であった。なお、その差の統計的効果量はユーダイモニア以外はいずれも小さいものである。

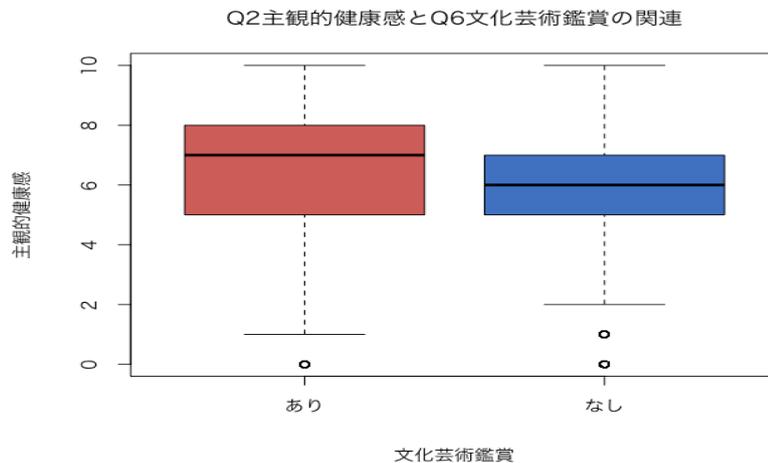
・直接的鑑賞 x 幸福感 Q1 (0-10点)

- (直接的芸術鑑賞あり) 平均値=6.40, SD=2.2
- (直接的芸術鑑賞なし) 平均値=5.85, SD=2.32
- $t(20004) = 16.694, p < 2.2e-16$ 効果量 $d=0.24$

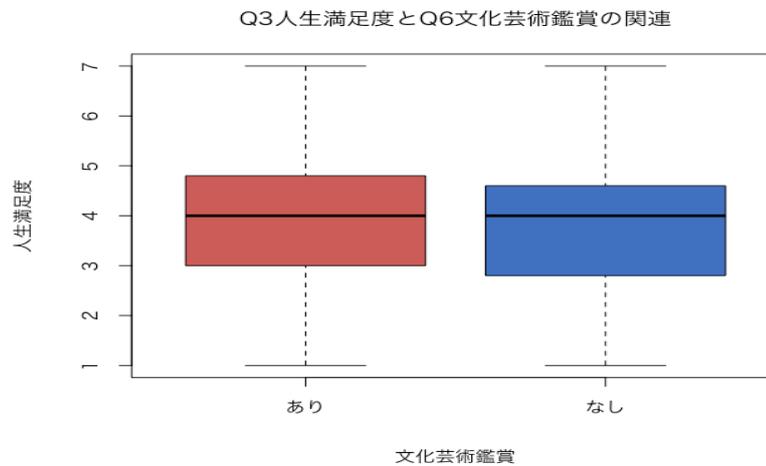


直接的鑑賞 x 主観的健康 Q2 (0-10点)

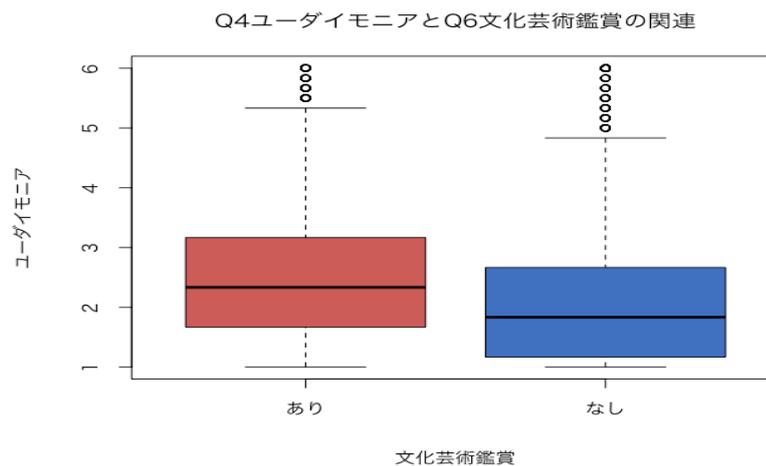
- (直接的芸術鑑賞あり) 平均値=6.28, SD=2.09
- (直接的芸術鑑賞なし) 平均値=5.79, SD=2.20
- $t(20004) = 15.715, p < 2.2e-16$ 効果量 $d=0.23$



- 直接的鑑賞 x 人生満足度 Q3の5項目平均
 - (直接的芸術鑑賞あり) 平均=3.90, SD=1.33
 - (直接的芸術鑑賞なし) 平均=3.65, SD=1.35
 - $t(20004) = 12.634, p < 2.2e-16$ 効果量 $d=0.19$

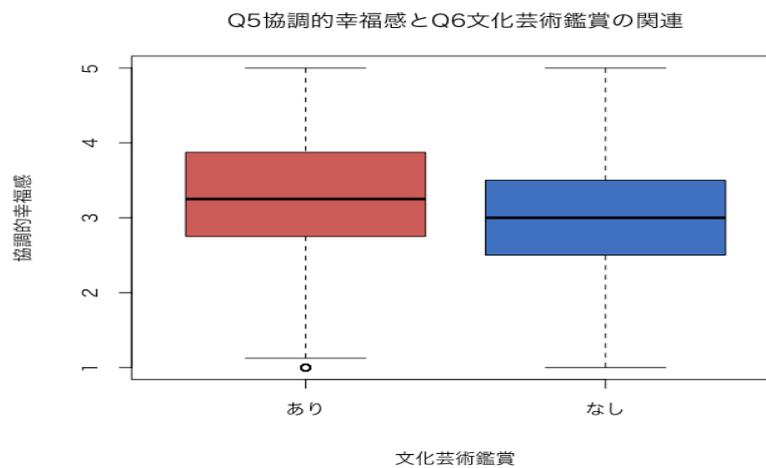


- 直接的鑑賞 x ユーダイモニア Q4 の6項目平均
 - (直接的芸術鑑賞あり) 平均=2.47, SD=1.10
 - (直接的芸術鑑賞なし) 平均=2.04, SD=1.04
 - $t(20004) = 28.334, p < 2.2e-16$ 効果量 $d=0.4$



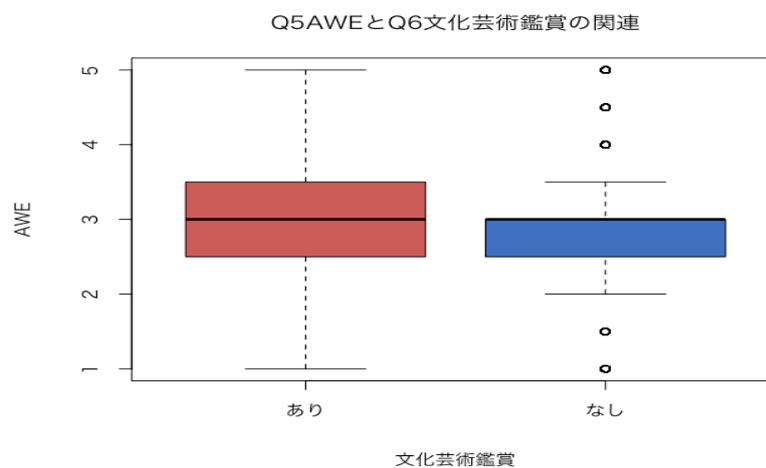
・直接的鑑賞 x 協調的幸福 Q5の8項目平均

- (直接的芸術鑑賞あり) 平均=3.17, SD=0.84
- (直接的芸術鑑賞なし) 平均=2.94, SD=0.86
- $t(20004) = 18.58, p < 2.2e-16$ 効果量 $d=0.27$



・直接的鑑賞 x Awe Q5の後ろ2項目 平均

- (直接的芸術鑑賞あり) 平均=3.01, SD=0.82
- (直接的芸術鑑賞なし) 平均=2.76, SD=0.82
- $t(20004) = 20.353, p < 2.2e-16$ 効果量 $d=0.30$

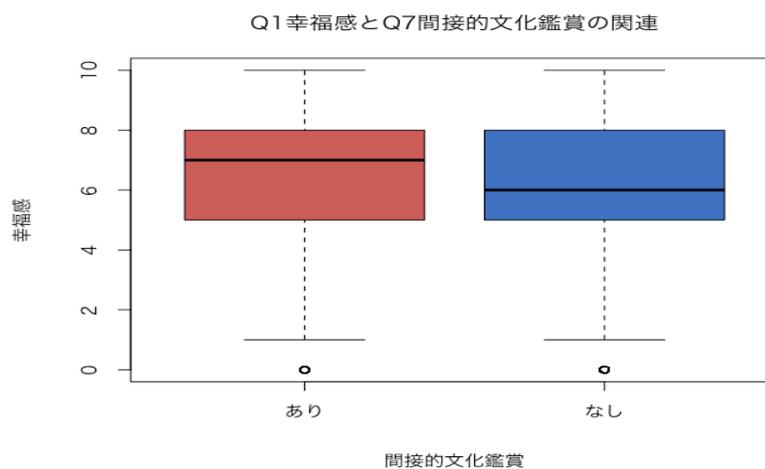


Q7 間接的文化鑑賞

Q7のテレビやオンライン等での文化芸術の間接的鑑賞を1年以内に「あり」とした群(63.3%)と「なし」とした群(36.7%)で比較をした結果、幸福感、主観的健康、人生満足度、ユーダイモニア、協調的幸福、Awe(畏怖畏敬)のいずれもあり群>なし群であった。なお、その差の統計的効果量はいずれも小さいものである。

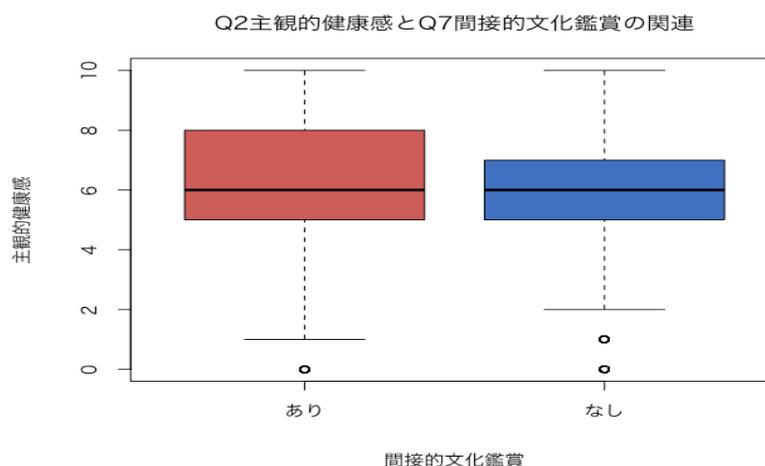
・ 間接的鑑賞 x 幸福感 Q1

- (間接的芸術鑑賞あり) 平均=6.26, SD=2.24
- (間接的芸術鑑賞なし) 平均=5.73, SD=2.34
- $t(20004) = 16.052, p < 2.2e-16$ 効果量 $d=0.23$



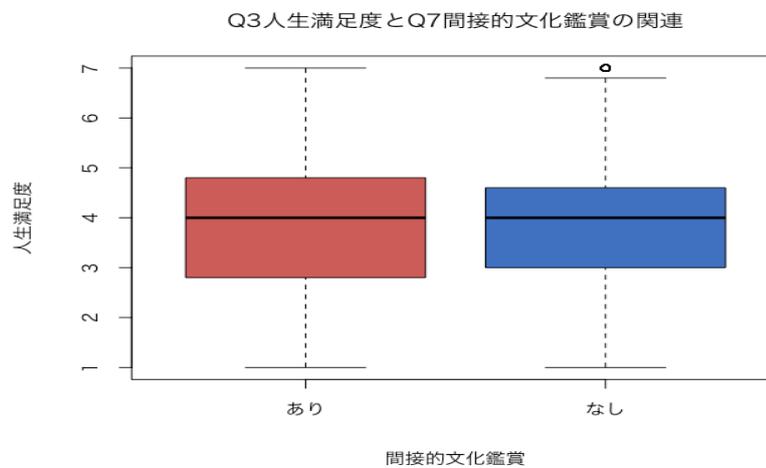
・ 間接的鑑賞 x 主観的健康 Q2

- (間接的芸術鑑賞あり) 平均=6.13, SD=2.13,
- (間接的芸術鑑賞なし) 平均=5.73, SD=2.2
- $t(20004) = 12.471, p < 2.2e-16$ 効果量 $d=0.19$



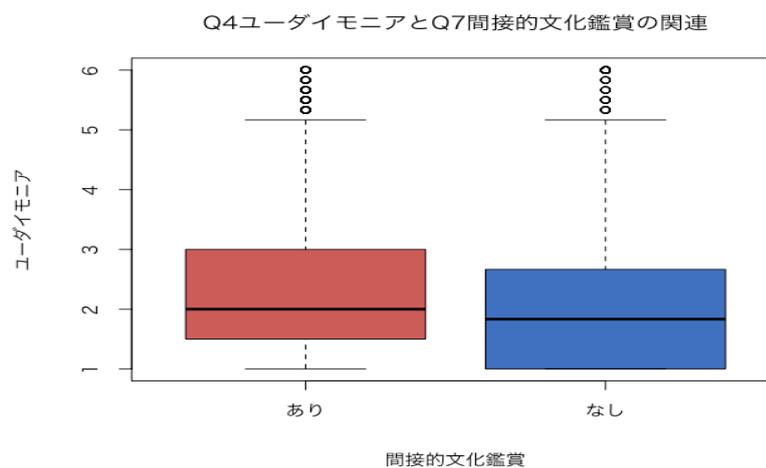
・ 間接的鑑賞 x 人生満足度 Q3の5項目平均

- (間接的芸術鑑賞あり) 平均=3.76, SD=1.36,
- (間接的芸術鑑賞なし) 平均=3.73, SD=1.33
- $t(20004) = 1.2993, p = 0.1915$ 効果量 $d=0.02$



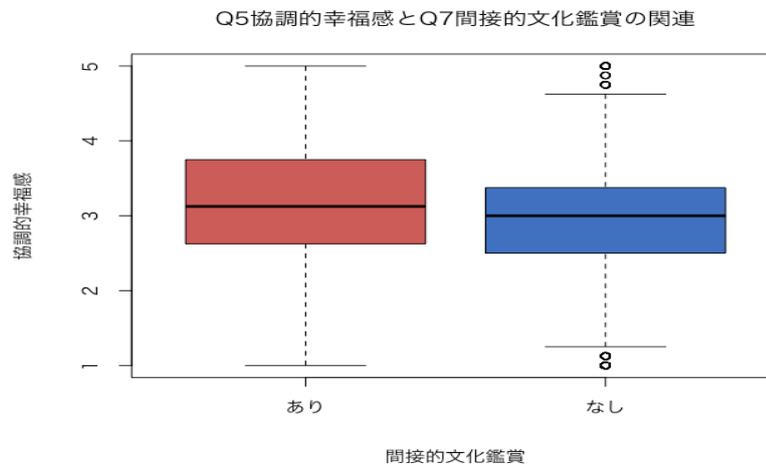
・ 間接的鑑賞 x ユーダイモニア Q4 の6項目平均

- (間接的芸術鑑賞あり) 平均=2.32, SD=1.08
- (間接的芸術鑑賞なし) 平均=2.01, SD=1.06
- $t(20004) = 20.023, p < 2.2e-16$ 効果量 $d=0.29$



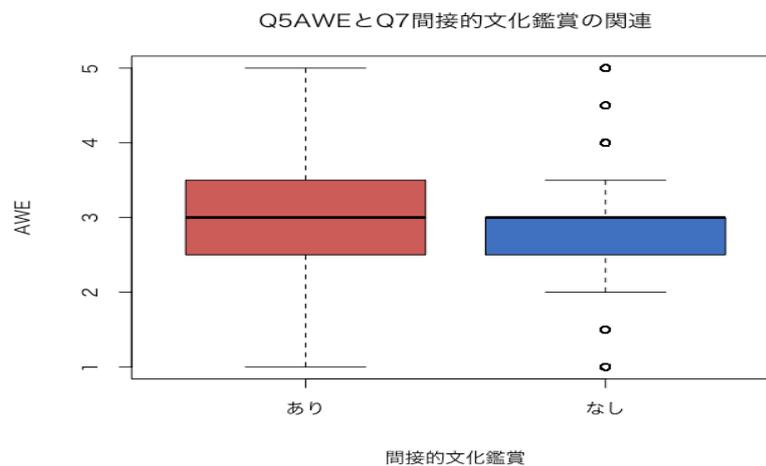
間接的鑑賞 x 協調的幸福 Q5の8項目平均

- (間接的芸術鑑賞あり) 平均=3.11, SD=0.86
- (間接的芸術鑑賞なし) 平均=2.90, SD=0.84
- $t(20004) = 16.643, p < 2.2e-16$ 効果量 $d=0.25$



・ 間接的鑑賞 x Awe Q5の後ろ2項目 平均

- (間接的芸術鑑賞あり) 平均=2.92, SD=0.82
- (間接的芸術鑑賞なし) 平均=2.76, 0.84
- $t(20004) = 12.882, p < 2.2e-16$ 効果量 $d=0.19$

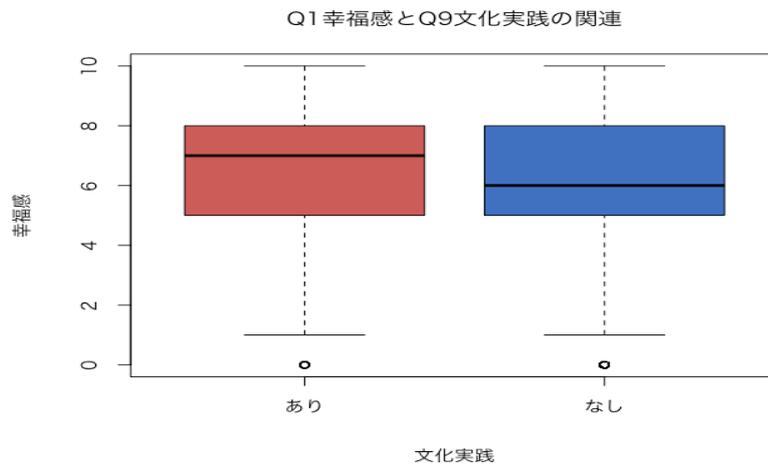


Q9 文化実践

Q9の文化実践活動を1年以内に「あり」とした群(10.0%)と「なし」とした群(90.0%)で比較をした結果、幸福感、主観的健康、人生満足度、ユーダイモニア、協調的幸福、Awe (畏怖畏敬) のいずれもあり群>なし群であった。なお、ユーダイモニア以外の統計的効果量はいずれも小さかった。ユーダイモニアでは十分な効果量がみられ、文化実践活動があった人たちでより人生の意義を感じる経験頻度が高かった。

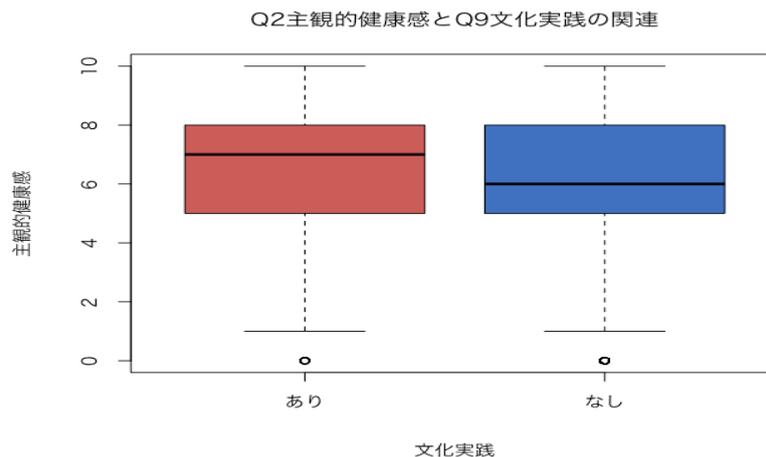
・文化実践 x 幸福感 Q1

- (文化実践あり) 平均=6.48, SD=2.25
- (文化実践なし) 平均=6.02, SD=2.29
- $t(20004) = 8.5533, p < 2.2e-16$ 効果量 $d=0.20$



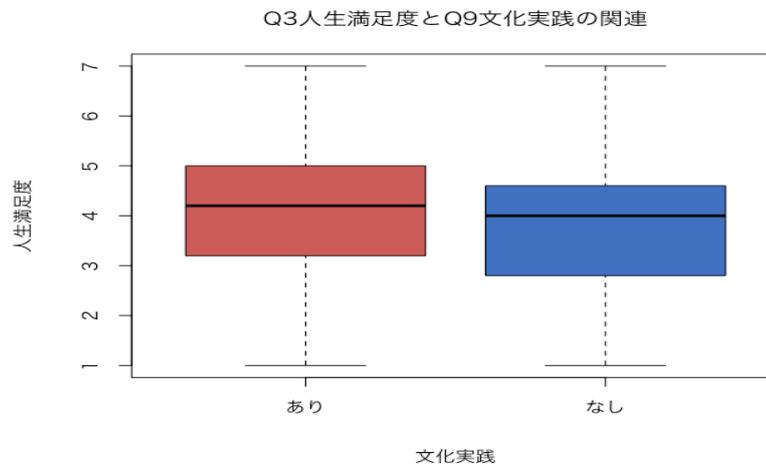
・文化実践 x 主観的健康 Q2

- (文化実践あり) 平均=6.37, SD=2.13
- (文化実践なし) 平均=5.94, SD=2.17
- $t(20004) = 8.3661, p < 2.2e-16$ 効果量 $d=0.20$



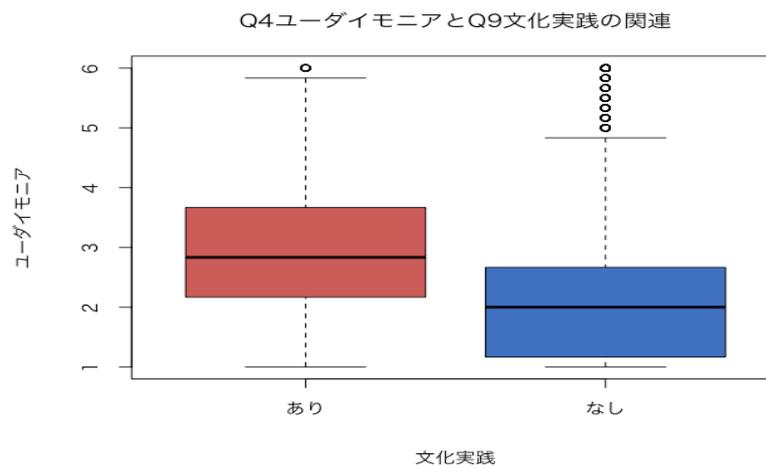
・文化実践 x 人生満足度 Q3の5項目平均

- (文化実践あり) 平均=4.07, SD=1.03
- (文化実践なし) 平均=3.71, SD=1.34
- $t(20004) = 11.275, p < 2.2e-16$ 効果量 $d=0.27$



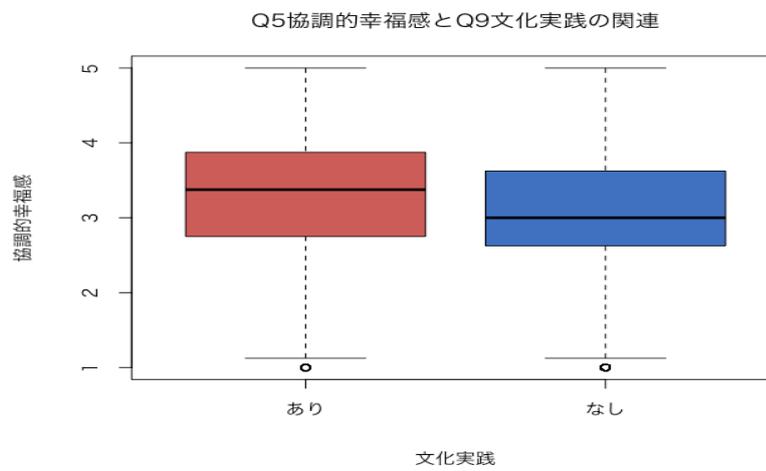
・文化実践 x ユーダイモニア Q4 の6項目平均

- (文化実践あり) 平均=2.94, SD=1.1
- (文化実践なし) 平均=2.13, SD=1.05
- $t(20004) = 32.485, p < 2.2e-16$ 効果量 $d=0.77$



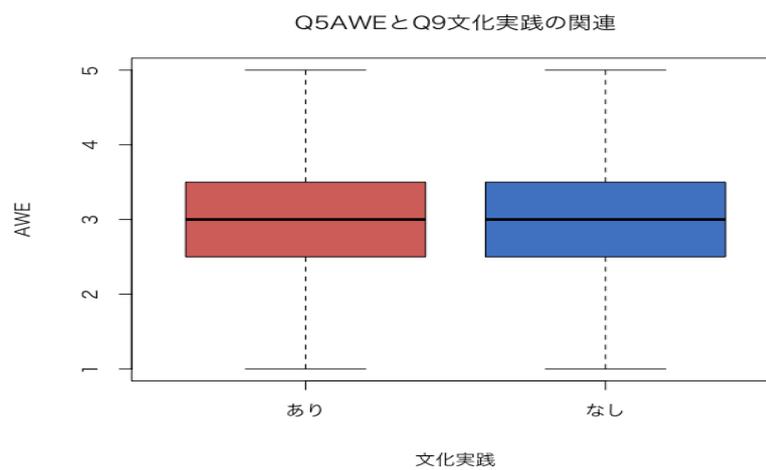
・文化実践 x 協調的幸福 Q5の8項目平均

- (文化実践あり) 平均=3.25, SD=0.84
- (文化実践なし) 平均=3.01, SD=0.86
- $t(20004) = 11.944, p < 2.2e-16$ 効果量 $d=0.28$



・文化実践 x Awe Q5の後ろ2項目 平均

- (文化実践あり) 平均=3.15, SD=0.84
- (文化実践なし) 平均=2.83, SD=0.82
- $t(20004) = 16.458, p < 2.2e-16$ 効果量 $d=0.39$



Q12 地域の文化環境への満足度

以下では、地域の文化環境への満足度とウェルビーイングの関係を検討する。なお、3群の比較では一要因分散分析を用いている(F値の後のカッコ内は自由度)。pが有意差であり0.05以下の場合には統計的に検定による群間の差は有意であるということになるが、今回はデータ数が多い(N = 20006)ため、有意差は出やすい状態となっており、効果量(η^2)による判断が必要となる。 η^2 は0.06以上で中程度とみなすのが基本である。

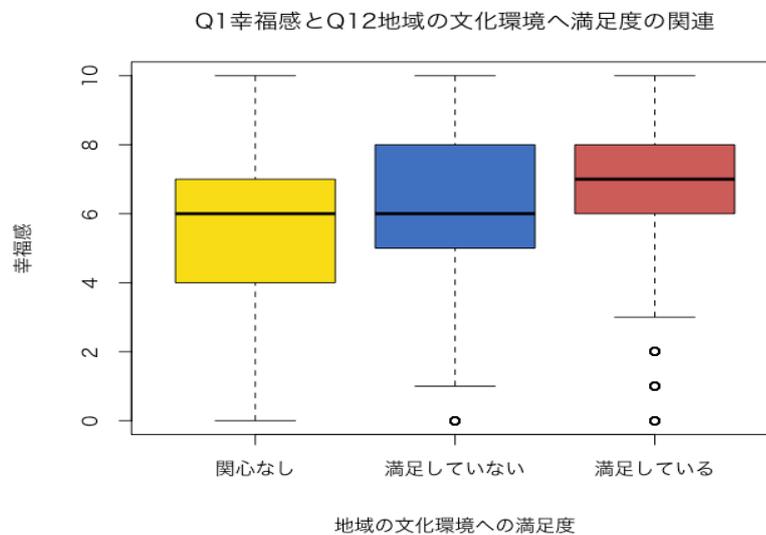
Q12の地域における文化鑑賞や活動の満足度について尋ねた項目とウェルビーイングとの関連を検討した。その際、「満足していない、どちらかという満足していない」と回答した群(31.0%)、「満足している、どちらかという満足している」と回答した群(32.1%)、「関心がない」と回答した群(36.8%)の3群での比較を行った。

幸福感、主観的健康、人生満足度、ユーダイモニア、協調的幸福、Awe（畏怖畏敬）のいずれも満足している > 満足していない \cong 関心なしとなっており、文化芸術に「関心を持ってない」と感じている層へのアプローチが重要であると考えられる。なお、幸福感、ユーダイモニア、協調的幸福、Awe以外の統計的効果量はいずれも小さいものである。

ユーダイモニアにおいては特に（満足している > 満足していない > 関心がない）という差に十分な効果量がみられており、地域の状態に対する満足度と人生の意義を感じる経験頻度の関連が強い。

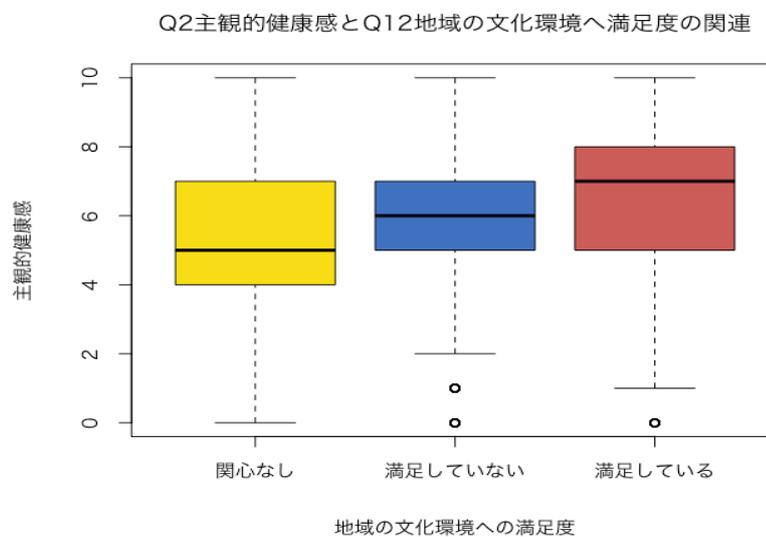
・地域文化環境満足 x 幸福感 Q1

- (地域の文化環境に満足している) 平均=6.85, SD=1.97,
- (地域の文化環境に満足していない) 平均=5.82, SD=2.24,
- (関心なし) 平均=5.6, SD=2.41
- $F(2, 20003) = 597.5, p < 2.2e-16 \quad \eta^2 = 0.056$



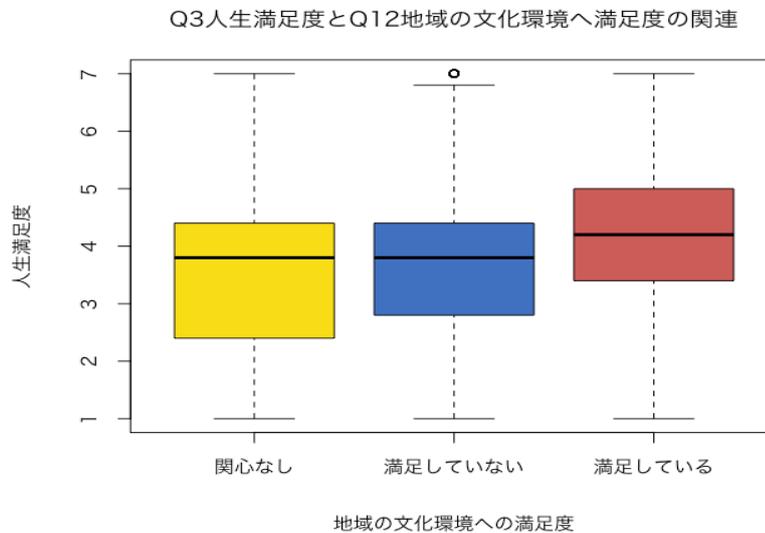
・地域文化環境満足 x 主観的健康感 Q2

- (地域の文化環境に満足している) 平均=6.6, SD=1.99
- (地域の文化環境に満足していない) 平均=5.78, SD=2.09
- (関心なし) 平均=5.62, SD=2.27
- $F(2, 20003) = 406.3, p < 2.2e-16 \quad \eta^2 = 0.039$



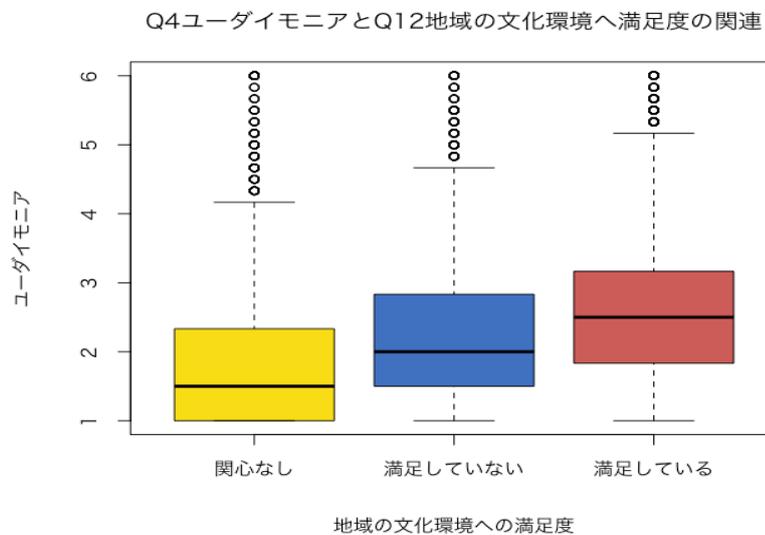
・地域文化環境満足 x 人生満足度 Q3の5項目平均

- (地域の文化環境に満足している) 平均=4.15, SD=1.27
- (地域の文化環境に満足していない) 平均=3.63, SD=1.28
- (関心なし) 平均=3.5, SD=1.38
- $F(2, 20003) = 464.6, p < 2.2e-16 \quad \eta^2 = 0.044$



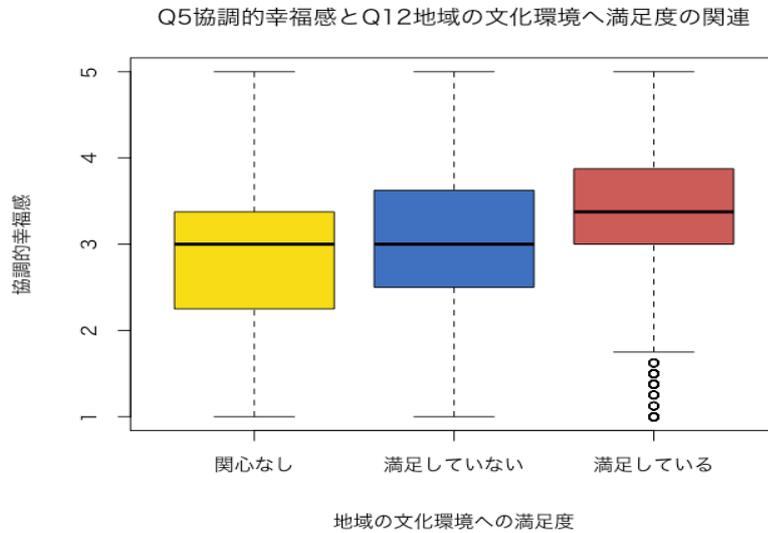
・地域文化環境満足 x ユーダイモニア Q4 の6項目平均

- (地域の文化環境に満足している) 平均=2.59, SD=1.11
- (地域の文化環境に満足していない) 平均=2.25, SD=1.03
- (関心なし) 平均=1.84, SD=0.97
- $F(2, 20003) = 897.1, p < 2.2e-16 \quad \eta^2 = 0.082$



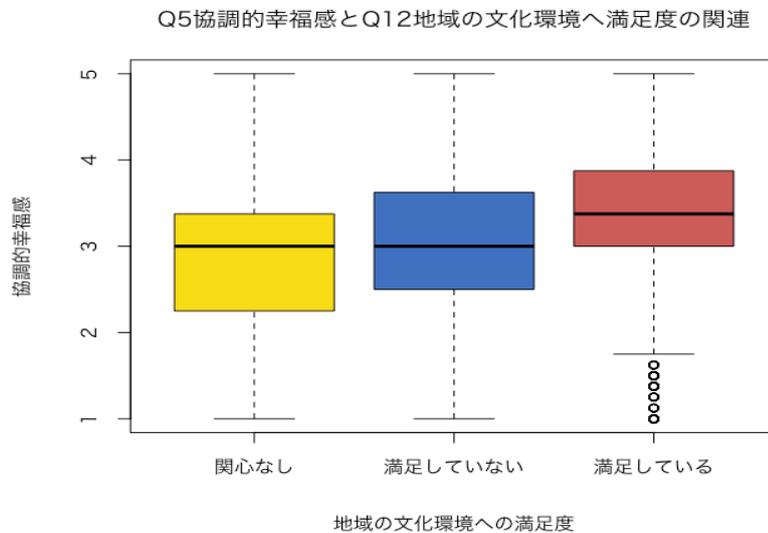
・地域文化環境満足 x 協調的幸福 Q5の8項目平均

- (地域の文化環境に満足している) 平均=3.33, SD=0.77
- (地域の文化環境に満足していない) 平均=2.98, SD=0.81
- (関心なし) 平均=2.8, SD=0.89
- $F(2, 20003) = 708.4, p < 2.2e-16 \quad \eta^2 = 0.066$



・地域文化環境満足 x Awe Q5の後ろ2項目 平均

- (地域の文化環境に満足している) 平均=3.12, SD=0.77
- (地域の文化環境に満足していない) 平均=2.89, SD=0.78
- (関心なし) 平均=2.61, SD=0.85
- $F(2, 20003) = 682.3, p < 2.2e-16 \quad \eta^2 = 0.064$



Q12SQ1S1地域の文化環境への満足度詳細〈文化芸術の鑑賞機会〉

Q12SQ1S1の地域における文化鑑賞や活動の満足度の、細目について尋ねた項目である「鑑賞機会への満足度」とウェルビーイングとの関連を検討した。その際、「満足していない、どちらかという満足していない」と回答した群(38.4%)、「満足している、どちらかという満足している」と回答した群(22.4%)、「関心がない」と回答した群(39.2%)の3群での比較を行った。

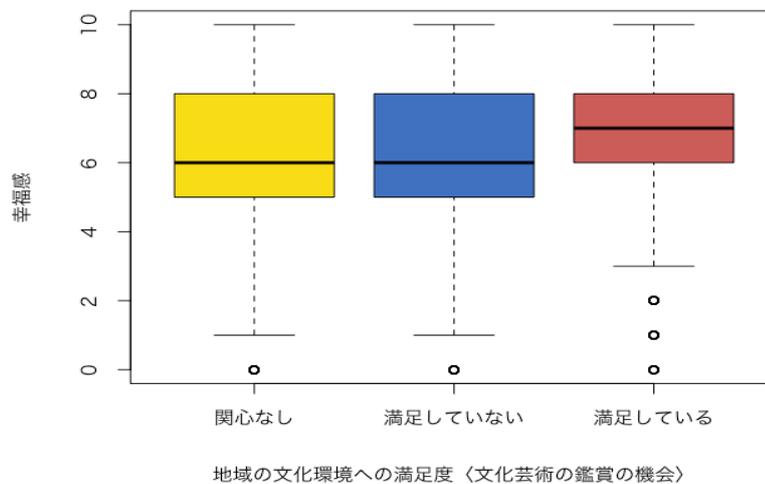
幸福感、主観的健康、人生満足度、ユーダイモニア、協調的幸福、Awe（畏怖畏敬）のいずれも満足している>満足していない≧関心なしとなっており、文化芸術に「関心を持たない」と感じている層へのアプローチが重要であると考えられる。なお、ユーダイモニア、協調的幸福、Awe以外の統計的効果量はいずれも小さいものである。

ユーダイモニアにおいては特に（満足している>満足していない>関心がない）という差に十分な効果量がみられており、地域の状態に対する満足度と人生の意義を感じる経験頻度の関連が強い。

・地域文化鑑賞機会満足 x 幸福感 Q1

- (地域の文化芸術の鑑賞機会に満足している) 平均=6.91, SD=1.99
- (地域の文化芸術の鑑賞機会に満足していない) 平均=5.94, SD=2.19
- (関心なし) 平均=5.71, SD=2.42
- $F(2, 20003) = 430.2, p < 2.2e-16 \quad \eta^2 = 0.041$

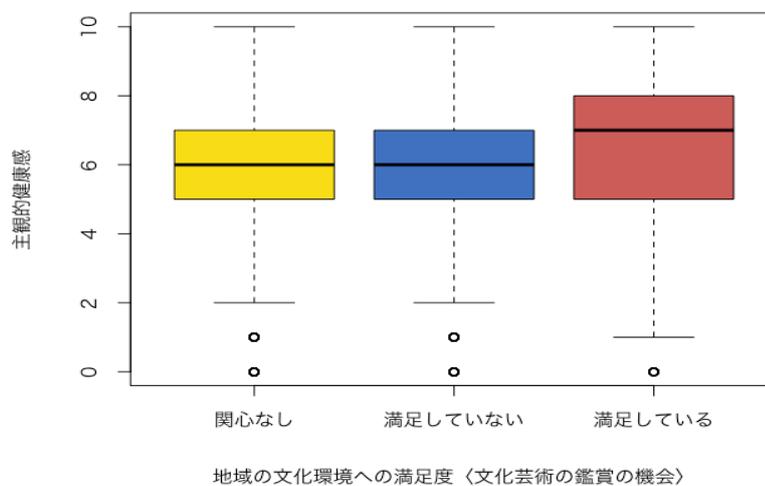
Q1 幸福感とQ12SQ1S1地域の文化環境への満足度〈文化芸術の鑑賞の機会〉の関連



・地域文化鑑賞機会満足 x 主観的健康 Q2

- (地域の文化芸術の鑑賞機会に満足している) 平均=6.62, SD=2.01
- (地域の文化芸術の鑑賞機会に満足していない) 平均=5.86, SD=2.06
- (関心なし) 平均=5.74, SD=2.28
- $F(2, 20003) = 263.8, p < 2.2e-16 \quad \eta^2 = 0.026$

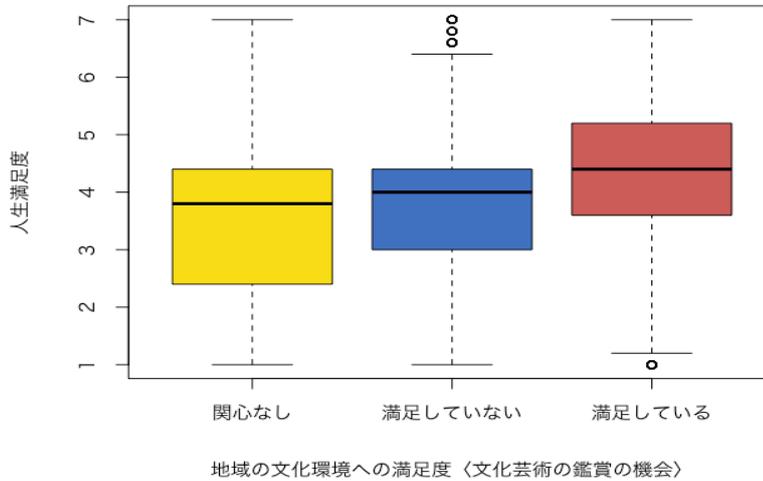
Q2 主観的健康感とQ12SQ1S1地域の文化環境への満足度〈文化芸術の鑑賞の機会〉の関連



・地域文化鑑賞機会満足 x 人生満足度 Q3の5項目平均

- (地域の文化芸術の鑑賞機会に満足している) 平均=4.27, SD=1.28
- (地域の文化芸術の鑑賞機会に満足していない) 平均=3.71, SD=1.24
- (関心なし) 平均=3.49, SD=1.4
- $F(2, 20003) = 497.4, p < 2.2e-16 \quad \eta^2 = 0.047$

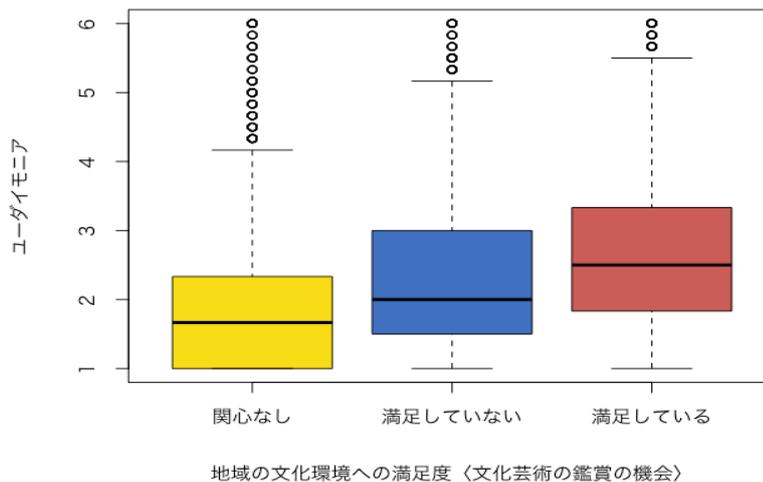
Q3人生満足度とQ12SQ1S1地域の文化環境への満足度〈文化芸術の鑑賞の機会〉の関連



・地域文化鑑賞機会満足 x ユーダイモニア Q4 の6項目平均

- (地域の文化芸術の鑑賞機会に満足している) 平均=2.67, SD=1.18
- (地域の文化芸術の鑑賞機会に満足していない) 平均=2.29, SD=1.02
- (関心なし) 平均=1.86, SD=0.95
- $F(2, 20003) = 974.5, p < 2.2e-16 \quad \eta^2 = 0.083$

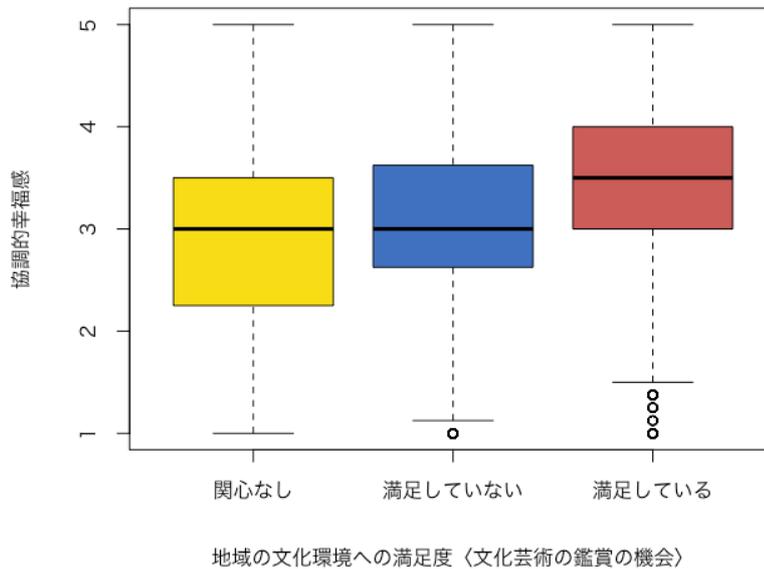
Q4ユーダイモニアとQ12SQ1S1地域の文化環境への満足度〈文化芸術の鑑賞の機会〉の関連



・地域文化鑑賞機会満足 x 協調的幸福 Q5の8項目平均

- (地域の文化芸術の鑑賞機会に満足している) 平均=3.38, SD=0.77
- (地域の文化芸術の鑑賞機会に満足していない) 平均=3.03, SD=0.78
- (関心なし) 平均=2.83, SD=0.91
- $F(2, 20003) = 644.4, p < 2.2e-16 \quad \eta^2 = 0.061$

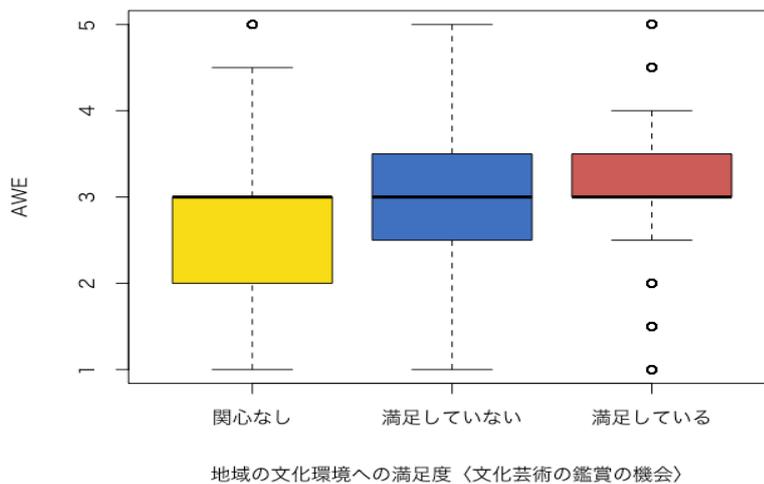
Q5協調的幸福感とQ12SQ1S1地域の文化環境への満足度〈文化芸術の鑑賞の機会〉の関連



・地域文化鑑賞機会満足 x Awe Q5の後ろ2項目 平均

- (地域の文化芸術の鑑賞機会に満足している) 平均=3.18, SD=0.77
- (地域の文化芸術の鑑賞機会に満足していない) 平均=2.92, SD=0.74
- (関心なし) 平均=2.61, SD=0.87
- $F(2, 20003) = 763.9, p < 2.2e-16 \quad \eta^2 = 0.071$

Q5AWEとQ12SQ1S1地域の文化環境への満足度〈文化芸術の鑑賞の機会〉の関連



Q12SQ1S2地域の文化環境への満足度詳細〈文化芸術活動の実践〉

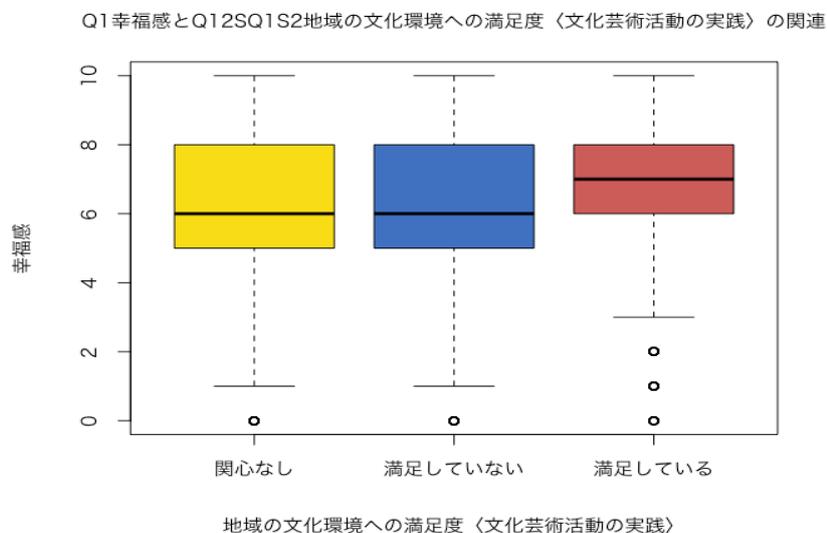
Q12SQ1S2の地域における文化鑑賞や活動の満足度の、細目について尋ねた項目である「芸術実践機会への満足度」とウェルビーイングとの関連を検討した。その際、「満足していない、どちらかという満足していない」と回答した群(37.7%)、「満足している、どちらかという満足している」と回答した群(21.2%)、「関心がない」と回答した群(41.1%)の3群での比較を行った。

幸福感、主観的健康、人生満足度、ユーダイモニア、協調的幸福、Awe（畏怖畏敬）のいずれも満足している>満足していない≧関心なしとなっており、文化芸術に「関心を持ってない」と感じている層へのアプローチが重要であると考えられる。なお、ユーダイモニア、協調的幸福、Awe以外の統計的効果量はいずれも小さいものである。

ユーダイモニアにおいては特に（満足している>満足していない>関心がない）という差に十分な効果量がみられており、地域の状態に対する満足度と人生の意義を感じる経験頻度の関連が強い。

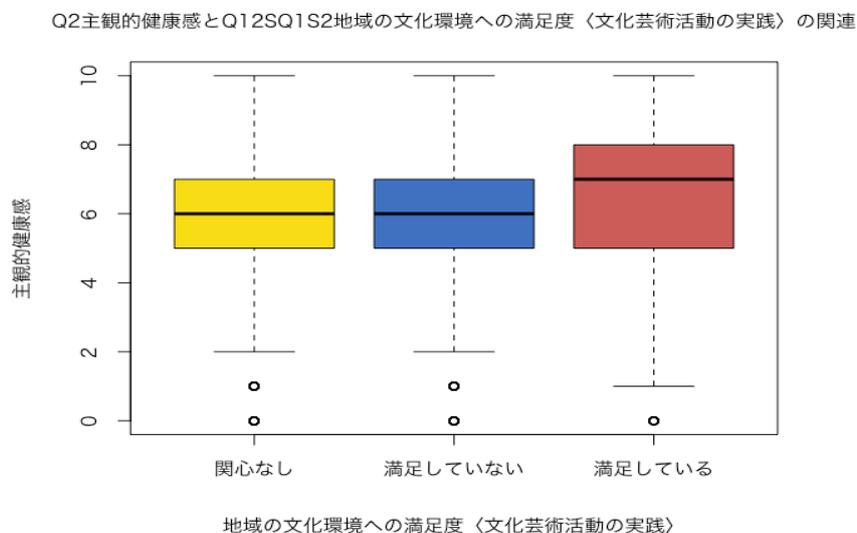
・地域文化実践機会満足 x 幸福感 Q1

- (地域の文化芸術活動実践の機会に満足している) 平均=6.94, SD=1.99
- (地域の文化芸術活動実践の機会に満足していない) 平均=5.94, SD=2.19
- (関心なし) 平均=5.73, SD=2.41
- $F(2, 20003) = 426.4, p < 2.2e-16 \quad \eta^2 = 0.041$



・地域文化実践機会満足 x 主観的健康 Q2

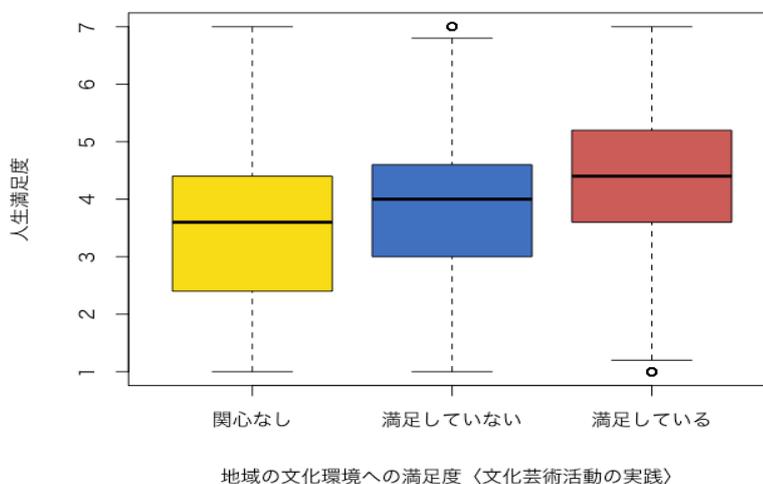
- (地域の文化芸術活動実践の機会に満足している) 平均=6.68, SD=2.0
- (地域の文化芸術活動実践の機会に満足していない) 平均=5.84, SD=2.06
- (関心なし) 平均=5.75, SD=2.27
- $F(2, 20003) = 289.5, p < 2.2e-16 \quad \eta^2 = 0.028$



・地域文化実践機会満足 x 人生満足度 Q3の5項目平均

- (地域の文化芸術活動実践の機会に満足している) 平均=4.28, SD=1.28
- (地域の文化芸術活動実践の機会に満足していない) 平均=3.74, SD=1.24
- (関心なし) 平均=3.49, SD=1.4
- $F(2, 20003) = 504.1, p < 2.2e-16 \quad \eta^2 = 0.048$

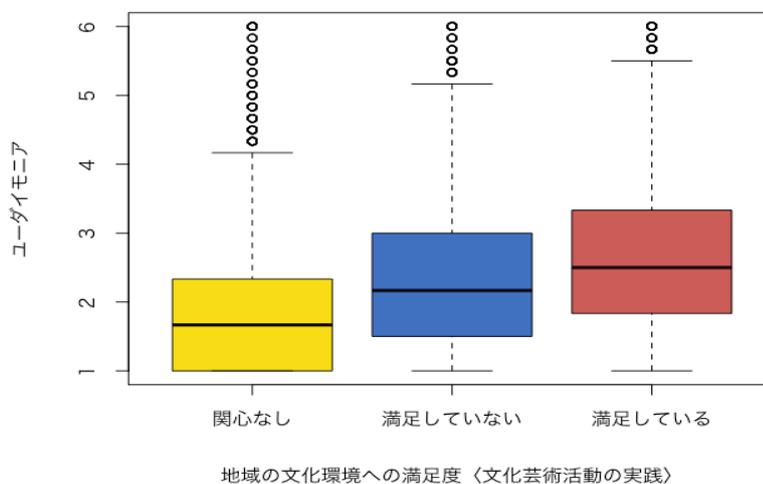
Q3人生満足度とQ12SQ1S2地域の文化環境への満足度〈文化芸術活動の実践〉の関連



・地域文化実践機会満足 x ユーダイモニア Q4 の6項目平均

- (地域の文化芸術活動実践の機会に満足している) 平均=2.69, SD=1.18
- (地域の文化芸術活動実践の機会に満足していない) 平均=2.31, SD=1.03
- (関心なし) 平均=1.86, SD=0.95
- $F(2, 20003) = 963.1, p < 2.2e-16 \quad \eta^2 = 0.088$

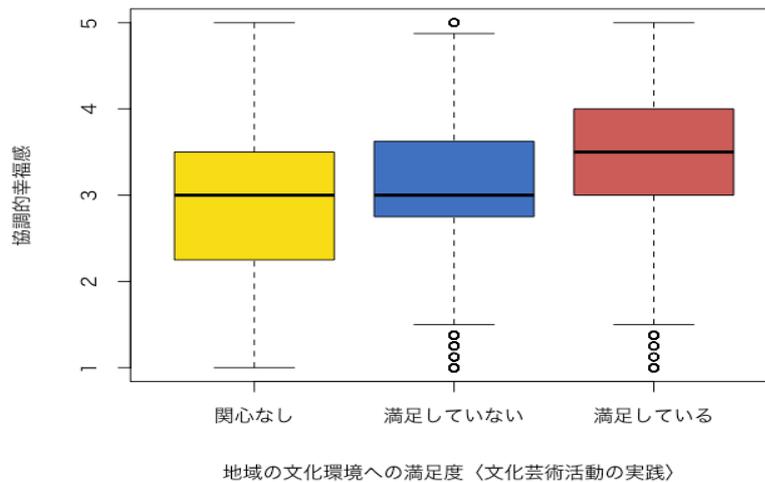
Q4ユーダイモニアとQ12SQ1S2地域の文化環境への満足度〈文化芸術活動の実践〉の関連



・地域文化実践機会満足 x 協調的幸福 Q5の8項目平均

- (地域の文化芸術活動実践の機会に満足している) 平均=3.4, SD=0.77
- (地域の文化芸術活動実践の機会に満足していない) 平均=3.04, SD=0.77
- (関心なし) 平均=2.83, SD=0.91
- $F(2, 20003) = 650.9, p < 2.2e-16 \quad \eta^2 = 0.061$

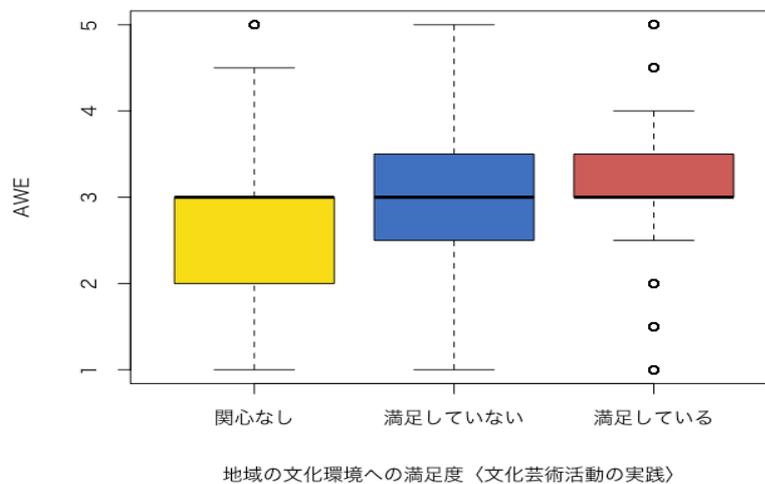
Q5協調的幸福感とQ12SQ1S2地域の文化環境への満足度〈文化芸術活動の実践〉の関連



・地域文化実践機会満足 x Awe Q5の後ろ2項目 平均

- (地域の文化芸術活動実践の機会に満足している) 平均=3.19, SD=0.77
- (地域の文化芸術活動実践の機会に満足していない) 平均=2.94, SD=0.74
- (関心なし) 平均=2.61, SD=0.86
- $F(2, 20003) = 796.2, p < 2.2e-16 \quad \eta^2 = 0.074$

Q5AWEとQ12SQ1S2地域の文化環境への満足度〈文化芸術活動の実践〉の関連



Q12SQ1S3地域の文化環境への満足度詳細〈文化財や伝統的まちなみの保存・整備〉

Q12SQ1S3の地域における文化鑑賞や活動の満足度の、細目について尋ねた項目である「文化財や伝統的まちなみの保存・整備への満足度」とウェルビーイングとの関連を検討した。その際、「満足していない、どちらかという満足していない」と回答した群(37.3%)、「満足している、どちらかという満足している」と回答した群(25.1%)、「関心がない」と回答した群(37.8%)の3群での比較を行った。

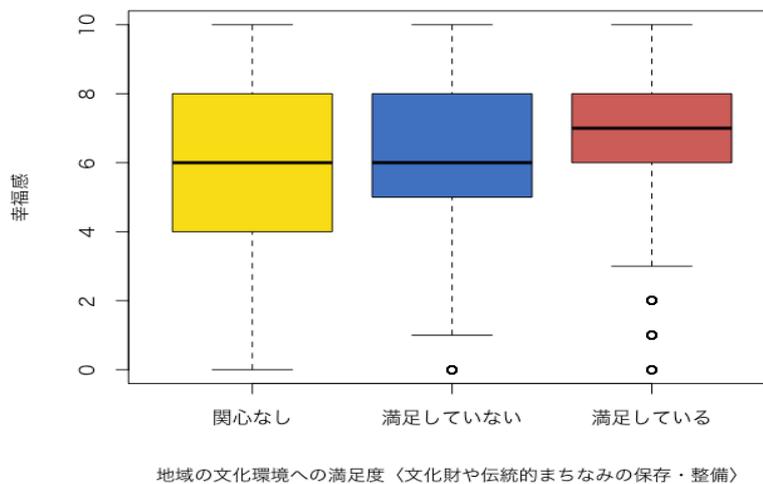
幸福感、主観的健康、人生満足度、ユーダイモニア、協調的幸福、Awe（畏怖畏敬）のいずれも満足している>満足していない \cong 関心なしとなっており、文化芸術に「関心を持ってない」と感じている層へのアプローチが重要であると考えられる。なお、ユーダイモニア、協調的幸福、Awe以外の統計的効果量はいずれも小さいものである。

ユーダイモニアにおいては特に（満足している>満足していない>関心がない）という差に十分な効果量がみられており、地域の状態に対する満足度と人生の意義を感じる経験頻度の関連が強い。

文化財まちなみ満足 x 幸福感 Q1

- (文化財や伝統的まちなみの保存・整備に満足している) 平均=6.89, SD=1.98
- (文化財や伝統的まちなみの保存・整備に満足していない) 平均=5.92, SD=2.19
- (関心なし) 平均=5.67, SD=2.44
- $F(2, 20003) = 473.7, p < 2.2e-16 \quad \eta^2 = 0.045$

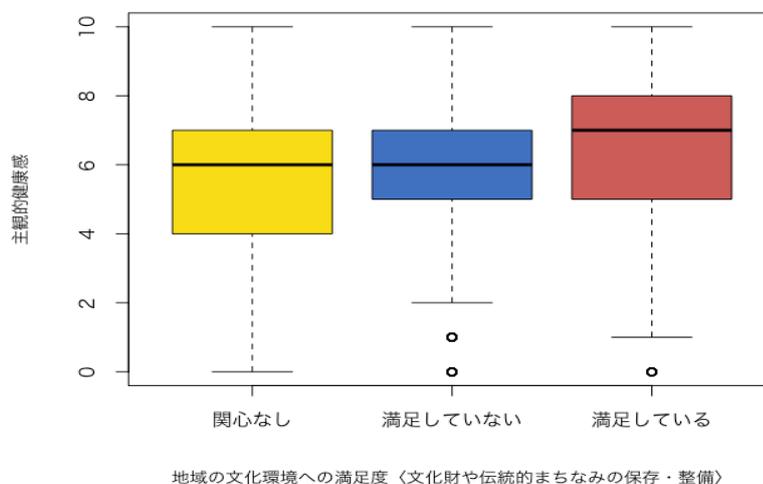
Q1幸福感とQ12SQ1S3地域の文化環境への満足度〈文化財や伝統的まちなみの保存・整備〉の関連



文化財まちなみ満足 x 主観的健康 Q2

- (文化財や伝統的まちなみの保存・整備に満足している) 平均=6.6, SD=2.01
- (文化財や伝統的まちなみの保存・整備に満足していない) 平均=5.84, SD=2.07
- (関心なし) 平均=5.71, SD=2.29
- $F(2, 20003) = 287.4, p < 2.2e-16 \quad \eta^2 = 0.028$

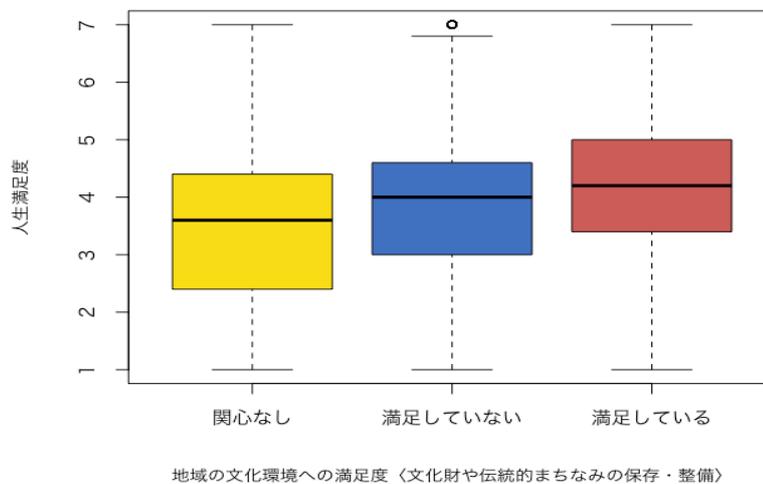
Q2主観的健康感とQ12SQ1S3地域の文化環境への満足度〈文化財や伝統的まちなみの保存・整備〉の関連



・文化財まちなみ満足 x 人生満足度 Q3の5項目平均

- (文化財や伝統的まちなみの保存・整備に満足している) 平均=4.21, SD=1.27
- (文化財や伝統的まちなみの保存・整備に満足していない) 平均=3.72, SD=1.25
- (関心なし) 平均=3.47, SD=1.41
- $F(2, 20003) = 477.6, p < 2.2e-16 \quad \eta^2 = 0.046$

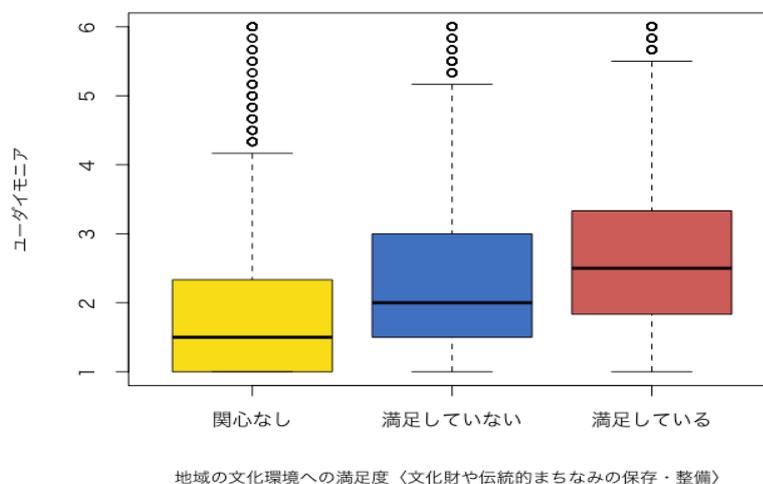
Q3人生満足度とQ12SQ1S3地域の文化環境への満足度〈文化財や伝統的まちなみの保存・整備〉の関連



・文化財まちなみ満足 x ユーダイモニア Q4 の6項目平均

- (文化財や伝統的まちなみの保存・整備に満足している) 平均=2.64, SD=1.14
- (文化財や伝統的まちなみの保存・整備に満足していない) 平均=2.30, SD=1.04
- (関心なし) 平均=1.84, SD=0.95
- $F(2, 20003) = 946.4, p < 2.2e-16 \quad \eta^2 = 0.086$

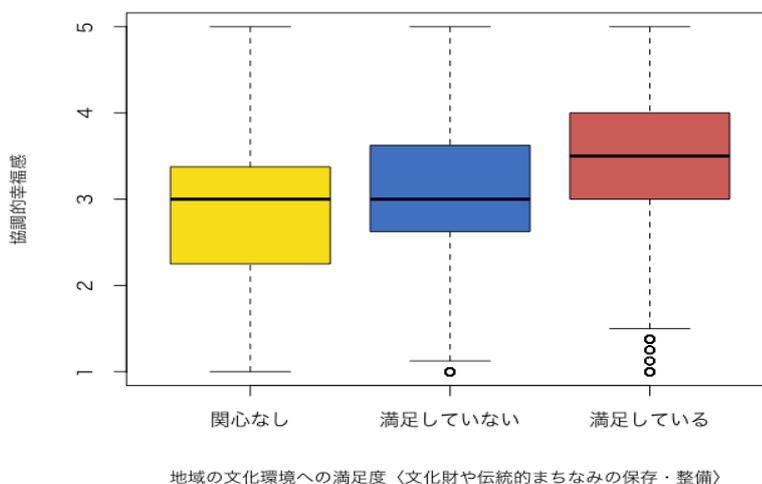
Q4ユーダイモニアとQ12SQ1S3地域の文化環境への満足度〈文化財や伝統的まちなみの保存・整備〉の関連



・文化財まちなみ満足 x 協調的幸福 Q5の8項目平均

- (文化財や伝統的まちなみの保存・整備に満足している) 平均=3.38, SD=0.77
- (文化財や伝統的まちなみの保存・整備に満足していない) 平均=3.02, SD=0.78
- (関心なし) 平均=2.81, SD=0.92
- $F(2, 20003) = 704.3, p < 2.2e-16 \quad \eta^2 = 0.066$

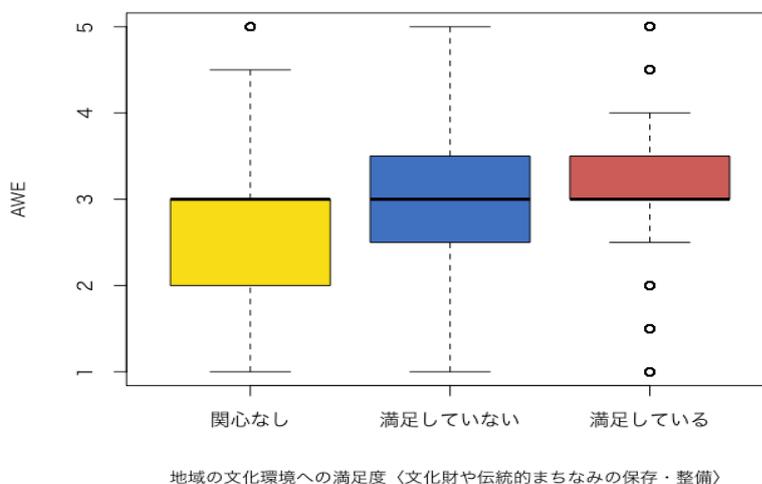
Q5協調的幸福とQ12SQ1S3地域の文化環境への満足度〈文化財や伝統的まちなみの保存・整備〉の関連



・文化財まちなみ満足 x Awe Q5の後ろ2項目 平均

- (文化財や伝統的まちなみの保存・整備に満足している) 平均=3.16, SD=0.76
- (文化財や伝統的まちなみの保存・整備に満足していない) 平均=2.92, SD=0.75
- (関心なし) 平均=2.6, SD=0.87
- $F(2, 20003) = 786.2, p < 2.2e-16 \quad \eta^2 = 0.073$

Q5AWEとQ12SQ1S3地域の文化環境への満足度〈文化財や伝統的まちなみの保存・整備〉の関連



Q14 オンラインを含めた文化的環境満足度

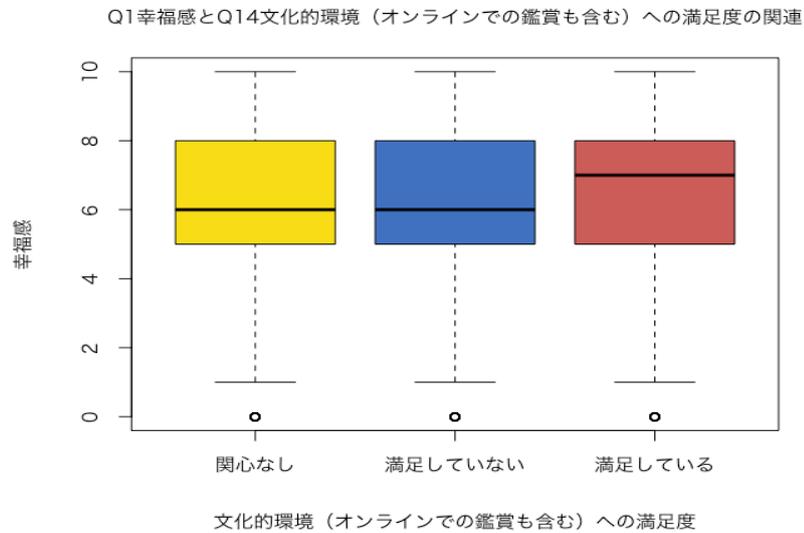
Q14のオンラインでの文化鑑賞を含めた満足度について尋ねた項目とウェルビーイングとの関連を検討した。その際、「満足していない、どちらかという満足していない」と回答した群(30.1%)、「満足している、どちらかという満足している」と回答した群(31.2%)、「関心がない」と回答した群(38.7%)の3群での比較を行った。

幸福感、主観的健康、人生満足度、ユーダイモニア、協調的幸福、Awe（畏怖畏敬）のいずれも満足している>満足していない \cong 関心なしとなっており、文化芸術に「関心を持ってない」と感じている層へのアプローチが重要であると考えられる。なお、ユーダイモニア以外の統計的効果量はいずれも小さいものである。

ユーダイモニアにおいては特に（満足している>満足していない>関心がない）という差に十分な効果量がみられており、オンラインを含めた文化的環境に対する満足度と人生の意義を感じる経験頻度の関連が強い。

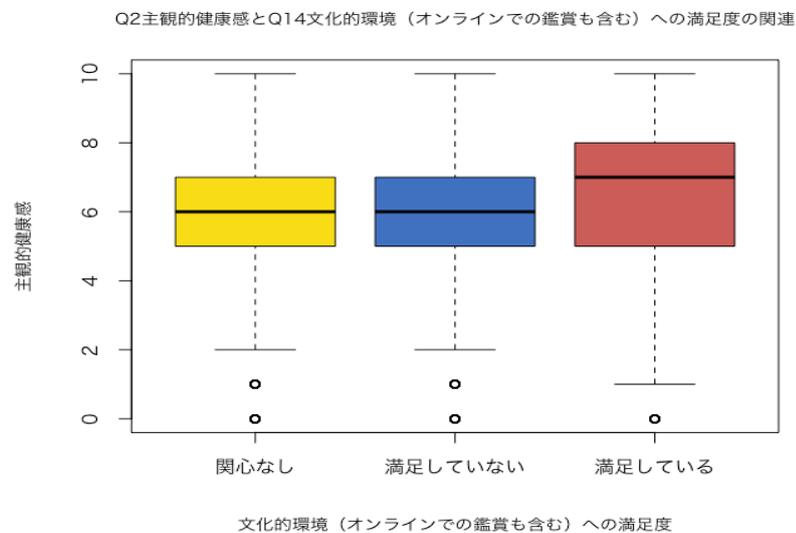
・オンライン含む文化環境満足 x 幸福感 Q1

- (オンラインでの文化鑑賞を含めた環境に満足している) 平均=6.78, SD=2.02,
- (オンラインでの文化鑑賞を含めた環境に満足していない) 平均=5.83, SD=2.23
- (関心なし) 平均=5.68, SD=2.41
- $F(2, 20003) = 463.3, p < 2.2e-16 \quad \eta^2 = 0.044$



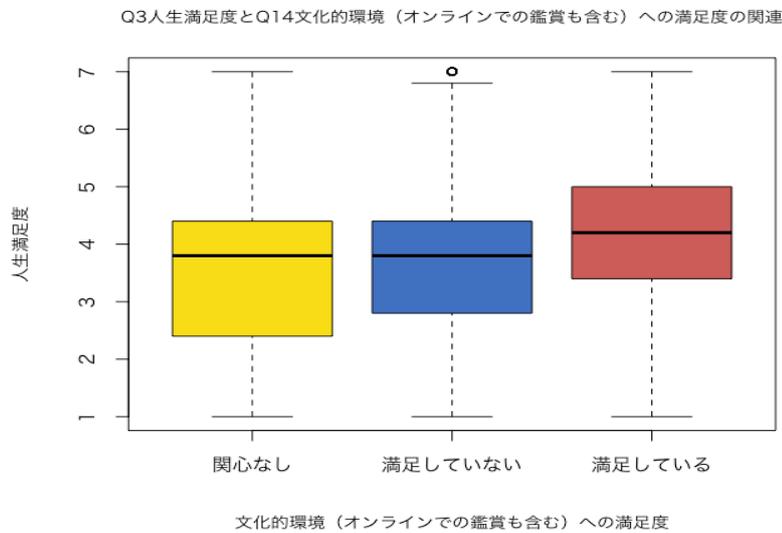
・オンライン含む文化環境満足 x 主観的健康 Q2

- (オンラインでの文化鑑賞を含めた環境に満足している) 平均=6.53, SD=2.03
- (オンラインでの文化鑑賞を含めた環境に満足していない) 平均=5.79, SD=2.09
- (関心なし) 平均=5.7, SD=2.26
- $F(2, 20003) = 300.1, p < 2.2e-16 \quad \eta^2 = 0.029$



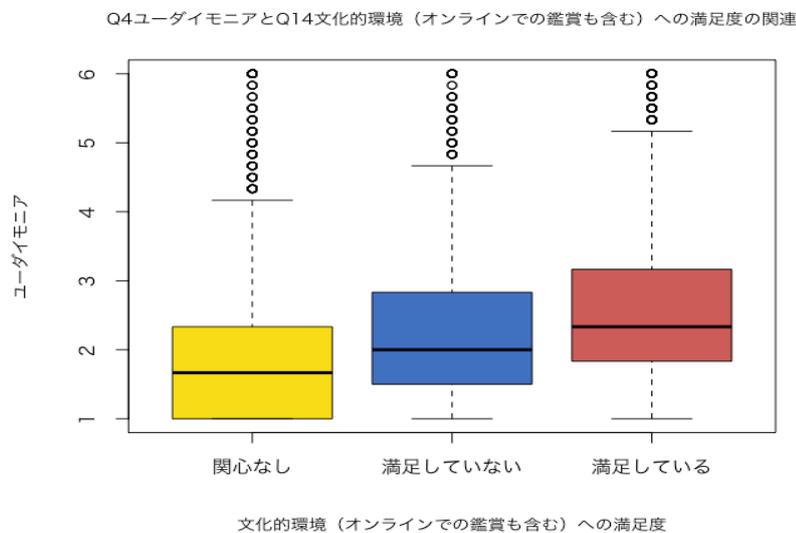
・オンライン含む文化環境満足 x 人生満足度 Q3の5項目平均

- (オンラインでの文化鑑賞を含めた環境に満足している) 平均=4.12, SD=1.29
- (オンラインでの文化鑑賞を含めた環境に満足していない) 平均=3.62, SD=1.28
- (関心なし) 平均=3.55, SD=1.38
- $F(2, 20003) = 352.7, p < 2.2e-16 \quad \eta^2 = 0.034$



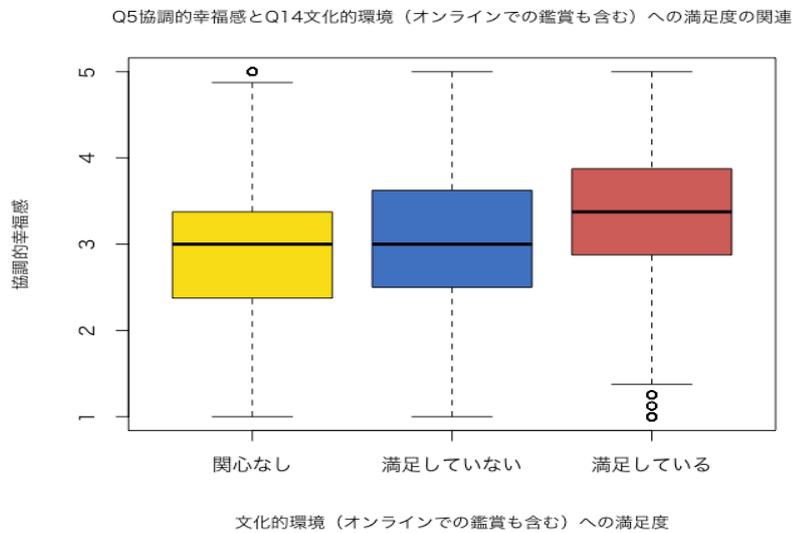
・オンライン含む文化環境満足 x ユーダイモニア Q4 の6項目平均

- (オンラインでの文化鑑賞を含めた環境に満足している) 平均=2.58, SD=1.13
- (オンラインでの文化鑑賞を含めた環境に満足していない) 平均=2.25, SD=1.01
- (関心なし) 平均=1.88, SD=0.99
- $F(2, 20003) = 352.7, p < 2.2e-16 \quad \eta^2 = 0.072$



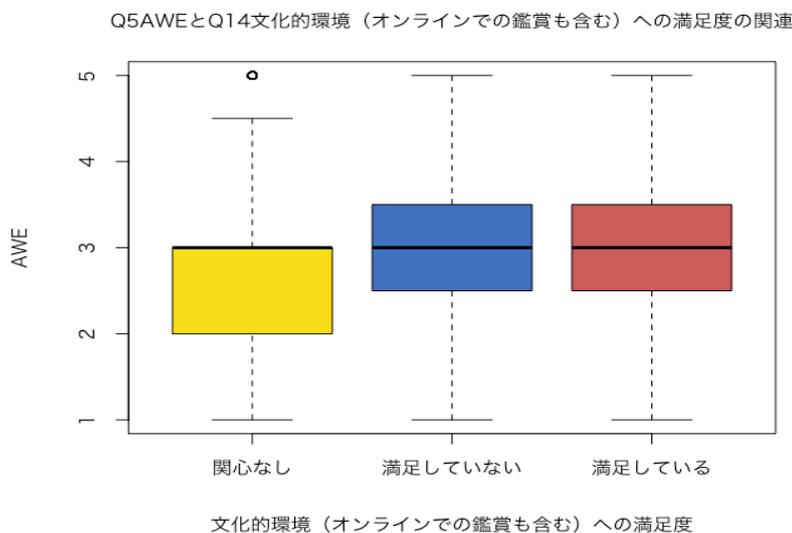
・オンライン含む文化環境満足 x 協調的幸福 Q5の8項目平均

- (オンラインでの文化鑑賞を含めた環境に満足している) 平均=3.31, SD=0.79
- (オンラインでの文化鑑賞を含めた環境に満足していない) 平均=2.98, SD=0.81
- (関心なし) 平均=2.84, SD=0.89
- $F(2, 20003) = 545.3, p < 2.2e-16 \quad \eta^2 = 0.052$



・オンライン含む文化環境満足 x Awe Q5の後ろ2項目 平均

- (オンラインでの文化鑑賞を含めた環境に満足している) 平均=3.1, SD=0.79
- (オンラインでの文化鑑賞を含めた環境に満足していない) 平均=2.88, SD=0.78
- (関心なし) 平均=2.65, SD=0.85
- $F(2, 20003) = 539, p < 2.2e-16 \quad \eta^2 = 0.051$



3. 重回帰分析

以下では、文化芸術の鑑賞・実践や地域の文化環境への満足度とウェルビーイングの関係を、重回帰分析を用いて検討する。その際には性別、年代、都市のサイズ、世帯年収を統計的に統制し、こうしたバックグラウンド要因に関わらず、上の2の項目で示したような文化芸術関連活動や満足度とウェルビーイングの関連が見られるのかを検討する。

なお、重回帰分析では標準化回帰係数 β の値を掲載しているが、 β が0.2以上となったものを太字で示している。これらは他の項目に比べて関連性が高いといえることができる。

統制変数

・性別

男性9669人(48.3%), 女性10337人(51.7%)

・年代

18-19歳(2.2%), 20代(11.4%), 30代(13.1%), 40代(17.2%), 50代(15.7%), 60代(14.7%), 70代(25.6%)

・都市サイズ（大都市が大きな数字になるように解析）

1. 小都市B（人口5万未満の市）・町村(14.6%), 2. 小都市A（人口5万以上15万未満の市）(27.0%), 3. 中都市（大都市を除く人口15万以上の市）(28.5%), 4. 大都市（政令指定都市及び東京都区部）(29.8%)

・世帯年収

12. わからない, 13. 答えたくない → 4139人

※12, 13と回答した4139人をのぞき、15867人で計算

重回帰分析 *の項目は関心なしを除いて分析

太字は β （標準化回帰係数）が0.20以上だったもの

	Q1幸福感	Q2主観的健康感	Q3人生満足度	Q4ユーザイモニア	Q5協調的幸福感	Q5Awe
Q6文化芸術鑑賞の有無 (あり=1、なし=0)	$\beta=0.11$, t=13.96***	$\beta=0.09$, t=11.95***	$\beta=0.08$, t=10.507 ***	$\beta=0.18$, t=23.783 ***	$\beta=0.12$, t=16.309 ***	$\beta=0.14$, t=17.816 ***
Q7間接的文化鑑賞の有無 (あり=1、なし=0)	$\beta=0.08$, t=10.148 ***	$\beta=0.06$, t=8.254 ***	$\beta=-0.01$, t=-1.346	$\beta=0.13$, t=17.030 ***	$\beta=0.09$, t=11.564 ***	$\beta=0.08$, t=10.253 ***
Q9文化実践の有無 (あり=1、なし=0)	$\beta=0.07$, t=8.873 ***	$\beta=0.06$, t=7.579 ***	$\beta=0.09$, t=11.377 ***	$\beta=0.22$, t=29.181 ***	$\beta=0.10$, t=13.275 ***	$\beta=0.13$, t=16.081 ***
Q10S1文化芸術活動頻度 〈直接的鑑賞〉	$\beta=0.04$, t=3.393 ***	$\beta=0.03$, t=2.673 **	$\beta=0.11$, t=9.556 ***	$\beta=0.20$, t=16.445 ***	$\beta=0.09$, t=8.192 ***	$\beta=0.12$, t=9.769 ***
Q10S2文化芸術活動頻度 〈間接的鑑賞〉	$\beta=0.03$, t=3.369 ***	$\beta=0.01$, t=0.615	$\beta=0.03$, t=2.838 **	$\beta=0.11$, t=11.539 ***	$\beta=0.04$, t=4.122 ***	$\beta=0.07$, t=7.666 ***
Q10S3文化芸術活動頻度 〈活動の実践〉	$\beta=0.05$, t=2.292 *	$\beta=0.03$, t=1.248	$\beta=0.10$, t=4.181 ***	$\beta=0.17$, t=7.067 ***	$\beta=0.12$, t=5.311 ***	$\beta=0.12$, t=5.135 ***
Q12地域の文化環境への満足度（関心の有無） (あり=1、なし=0)	$\beta=0.12$, t=15.977 ***	$\beta=0.10$, t=13.079 ***	$\beta=0.12$, t=15.446 ***	$\beta=0.24$, t=32.026 ***	$\beta=0.17$, t=22.248 ***	$\beta=0.21$, t=27.896 ***
Q12地域の文化環境への満足度*	$\beta=0.27$, t=29.262 ***	$\beta=0.21$, t=21.953 ***	$\beta=0.25$, t=26.305 ***	$\beta=0.18$, t=19.013 ***	$\beta=0.26$, t=28.656 ***	$\beta=0.18$, t=18.132 ***

	Q1幸福感	Q2主観的健康感	Q3人生満足度	Q4ユーダ イモニア	Q5協調的 幸福感	Q5Awe
Q12SQ1S1地域の文化環境への満足度 〈文化芸術の鑑賞機会〉 (関心あり/なし) (あり=1、なし=0)	$\beta = 0.10,$ $t = 12.905$ ***	$\beta = 0.07,$ $t = 9.330$ ***	$\beta = 0.13,$ $t = 16.826$ ***	$\beta = 0.25,$ $t = 32.466$ ***	$\beta = 0.15,$ $t = 20.669$ ***	$\beta = 0.23,$ $t = 29.383$ ***
Q12SQ1S1地域の文化環境への満足度 〈文化芸術の鑑賞機会〉*	$\beta = 0.21,$ $t = 22.751$ ***	$\beta = 0.17,$ $t = 17.644$ ***	$\beta = 0.24,$ $t = 25.190$ ***	$\beta = 0.17,$ $t = 17.220$ ***	$\beta = 0.25,$ $t = 26.297$ ***	$\beta = 0.17,$ $t = 17.172$ ***
Q12SQ1S2地域の文化環境への満足度 〈文化芸術活動の実践〉 (関心あり/なし) (あり=1、なし=0)	$\beta = 0.10,$ $t = 13.021$ ***	$\beta = 0.07,$ $t = 9.380$ ***	$\beta = 0.14,$ $t = 18.061$ ***	$\beta = 0.26,$ $t = 33.651$ ***	$\beta = 0.16,$ $t = 21.295$ ***	$\beta = 0.24,$ $t = 31.129$ ***
Q12SQ1S2地域の文化環境への満足度 〈文化芸術活動の実践〉*	$\beta = 0.22,$ $t = 23.024$ ***	$\beta = 0.19,$ $t = 19.168$ ***	$\beta = 0.23,$ $t = 23.721$ ***	$\beta = 0.16,$ $t = 16.116$ ***	$\beta = 0.24,$ $t = 25.045$ ***	$\beta = 0.17,$ $t = 17.299$ ***
Q12SQ1S3地域の文化環境への満足度 〈文化財や伝統的まちなみの保存・整備〉(関心あり/なし) (あり=1、なし=0)	$\beta = 0.10,$ $t = 13.919$ ***	$\beta = 0.08,$ $t = 10.305$ ***	$\beta = 0.13,$ $t = 17.501$ ***	$\beta = 0.26,$ $t = 33.766$ ***	$\beta = 0.16,$ $t = 21.794$ ***	$\beta = 0.23,$ $t = 30.502$ ***

	Q1幸福感	Q2主観的健康感	Q3人生満足度	Q4ユーダイモニア	Q5協調的幸福感	Q5Awe
Q12SQ1S3地域の文化環境への満足度 〈文化財や伝統的まちなみの保存・整備〉*	$\beta = 0.21,$ $t = 22.514$ ***	$\beta = 0.17,$ $t = 17.397$ ***	$\beta = 0.22,$ $t = 22.671$ ***	$\beta = 0.16,$ $t = 16.228$ ***	$\beta = 0.24,$ $t = 25.820$ ***	$\beta = 0.17,$ $t = 17.153$ ***
Q14オンライン鑑賞を含めた文化的環境への満足度 (関心あり/なし) (あり=1、なし=0)	$\beta = 0.11,$ $t = 14.437$ ***	$\beta = 0.09,$ $t = 11.035$ ***	$\beta = 0.10,$ $t = 12.513$ ***	$\beta = 0.23,$ $t = 29.616$ ***	$\beta = 0.14,$ $t = 19.356$ ***	$\beta = 0.20,$ $t = 25.339$ ***
Q14オンライン鑑賞を含めた文化的環境への満足度*	$\beta = 0.26,$ $t = 28.397$ ***	$\beta = 0.21,$ $t = 21.791$ ***	$\beta = 0.24,$ $t = 25.323$ ***	$\beta = 0.18,$ $t = 18.764$ ***	$\beta = 0.25,$ $t = 27.489$ ***	$\beta = 0.18,$ $t = 18.071$ ***

重回帰分析の結果から、

- 1) ユーダイモニア（人生の意義）は、特に文化芸術の直接鑑賞の頻度が高いこと、文化実践活動があること、地域の文化環境への関心を持っていることと関連している。
- 2) 幸せ、人生満足度、協調的幸福感は、特に地域文化環境に満足していることと関連している。
- 3) 年齢や性別、都市サイズ、年収などを統制しても、文化芸術活動あるいは地域の文化環境への関心の有無や満足度は、ウェルビーイングと関連している。文化芸術鑑賞や活動の持つ効果は一定の年齢や年収を有するグループにおいてみられるものという考えがあるが、実際にはそうではなく、より一般化可能なものである。
- 4) また、次項の付録的分析によると、文化芸術の直接鑑賞とウェルビーイングの関係は、年収や学歴が低い群でむしろその関連性が強いという傾向が見られ

た。また、文化実践活動とウェルビーイングの関係は、学歴が低い群でその関連性が強い傾向が見られた。このことから、文化芸術の幅広い層への普及が重要であると考えられる。

- 5) ただし、文化芸術の間接的鑑賞とウェルビーイングの関係は、学歴が高い群でよりその関連性が強い傾向があり、学歴が高い人のほうがより良い間接鑑賞の機会を見つけれられている可能性があるのかもしれない。

4. 付録的分析：ウェルビーイングと文化芸術活動の関係を、社会経済的地位（学歴や年収）や地域の文化施設の有無が調整するか

*学歴と年収の相関は0.26

・Q6.文化芸術の直接的鑑賞のあり/なしとウェルビーイングの関係が、年収や学歴によって強められたり弱められたりするのかを検討した。

- 年収の調整効果は強いものではないが、年収が低い群でより直接鑑賞→幸福感、健康感、人生満足度、Aweの関係が、年収が高い群よりもやや強い傾向があった。
 - **幸福感**：芸術鑑賞の主効果($t=7.712^{***}$), 年収の主効果($t=18.887^{***}$), 芸術鑑賞×年収($t=-2.360^*$)
 - **健康感**：芸術鑑賞の主効果($t=7.676^{***}$), 年収の主効果($t=15.664^{***}$), 芸術鑑賞×年収($t=-2.708^*$)
 - **人生満足度**：芸術鑑賞の主効果($t=6.342^{***}$), 年収の主効果($t=20.016^{**}$), 芸術鑑賞×年収($t=-2.219^*$)
 - **Awe**：芸術鑑賞の主効果($t=10.192^{***}$), 年収の主効果($t=12.926^{***}$), 芸術鑑賞×年収($t=-2.621^{**}$)

- 学歴の調整効果は強いものではないが、学歴が低い群でより直接鑑賞→健康感、Aweの関係が、学歴が高い群よりもやや強い傾向があった。
 - **健康感**：芸術鑑賞の主効果($t=5.414^{***}$), 学歴の主効果($t=5.963^{***}$), 芸術鑑賞×学歴($t=-1.964^*$)
 - **Awe**：芸術鑑賞の主効果($t=6.707^{***}$), 学歴の主効果($t=6.279^{***}$), 芸術鑑賞×学歴($t=-2.060^*$)

・Q7.文化芸術の間接的鑑賞のあり/なしとウェルビーイングの関係が、年収や学歴によって強められたり弱められたりするのかを検討した。

- 年収の調整効果は強いものではないが、年収が低い群でより間接的鑑賞→Aweの関係が、年収が高い群よりやや強い傾向があった。
 - **Awe**：芸術鑑賞の主効果($t=6.972^{***}$)、年収の主効果($t=11.144^{***}$)、芸術鑑賞×年収($t=-2.128^*$)

- 学歴の調整効果は強いものではないが、学歴が高い群で、学歴が低い群より、間接的鑑賞→幸福感、健康感、ユーダイモニア、協調的幸福感、Aweの関係が、強い傾向があった。
 - **幸福感**：芸術鑑賞の主効果は有意ではない、学歴の主効果($t=3.112^{**}$)、芸術鑑賞×学歴($t=2.012^*$)
 - **健康感**：芸術鑑賞の主効果は有意ではない、学歴の主効果($t=2.405^*$)、芸術鑑賞×学歴($t=2.111^*$)
 - **ユーダイモニア**：芸術鑑賞の主効果($t=2.267^*$)、学歴の主効果($t=5.920^{***}$)、芸術鑑賞×学歴($t=2.457^*$)
 - **協調的幸福感**：芸術鑑賞の主効果は有意ではない、学歴の主効果は有意ではない、芸術鑑賞×学歴($t=4.212^{***}$)
 - **Awe**：芸術鑑賞の主効果は有意ではない、学歴の主効果($t=2.698^{**}$)、芸術鑑賞×学歴($t=2.297^*$)

・Q9.文化活動実践のあり/なしとウェルビーイングの関係が、年収や学歴によって強められたり弱められたりするのかを検討した。

- 年収の調整効果はなく、文化実践とウェルビーイングの関係は年収によらず、正の関係があることが示された。
-
- 学歴の調整効果は強いものではないが、学歴が低い群でより文化活動実践→健康感、協調的幸福感が、学歴が高い群よりやや強い傾向があった。
 - **健康感**：文化実践の主効果($t=4.758^{***}$)、学歴の主効果($t=7.635^{***}$)、文化実践×学歴($t=-2.929^{**}$)
 - **協調的幸福感**：文化実践の主効果($t=4.710^{***}$)、学歴の主効果($t=8.736^{***}$)、文化実践×学歴($t=-2.105^*$)

・Q6.文化芸術の直接的鑑賞のあり/なしとウェルビーイングの関係が、地域の文化芸術関連施設の有無という、環境整備状態によって強められたり弱められたりするのかを検討したところ、全体的に、地域の文化芸術関連施設の有無による調整効果はほとんど見られなかった（施設ありとした群で、直接鑑賞→人生満足度の関連がやや強い傾向があったのみ）。それ以外には統計的に意味のある調整効果は見られず、地域の施設の有無にかかわらず、文化芸術活動とウェルビーイングの関連は見られるといえる。

Ⅲ. 総合考察

本調査から、文化に関する国民の意識や活動が、ウェルビーイングと一定の関わりを持っていることが示唆された。特にユーダイモニア（人生の意義）については直接的な文化芸術鑑賞や実践が、人生の満足度や協調的な幸福については地域の文化芸術状況への満足度が、それぞれ強く関連していることが示された。

また、文化芸術鑑賞や活動、地域の文化芸術環境とウェルビーイングの関連は、年齢や性別、都市サイズや年収などを統制してもみられるものであり、文化芸術に触れることが、一部の人のみならず、様々な人々の生きがいやつながりと一定の関係があるといえる。さらに一部の分析では年収や学歴が低い人で、よりこうしたつながりもみられた。これまで、文化芸術は一定の生活満足が得られた後に求められる「付加的」なものだというステレオタイプな見方もあったと思われるが、本調査の結果からみると、むしろ現在の日本社会においては、どのような人たちにおいても、文化芸術は感情を動かし、人生の意義を感じる上で、広く重要視されるものであり、多くの人の生活の中に取り入れられるべきものではないかと考えられる。

政策としては、たとえば地域の文化芸術状態に「関心がない」という人たちは、ウェルビーイングが低い傾向にあることから、文化への関心を高めることがファースト・ステップとなるだろう。この点は教育や地域活動との連携が必要であり、上に書いたような「文化芸術は一定層の人にしかウェルビーイングをもたらさない」というステレオタイプを変えていくような活動として展開していく必要がある。

冒頭にも記載した通り、今回の調査では個人差としての相関関係を見ているにすぎず、因果関係を特定することはできないので、別解釈の余地も残っている。文化芸術活動に触れることでウェルビーイングを感じるということもできるが、その反対に、よりウェルビーイングを感じている個人は、文化芸術に関心を持ちやすいということもできる。この点についてはTotterdell & Poerio (2021) の研究のような時系列的な調査を実施することで詳細な検討を行う必要があるだろう。